

平成29年度

板橋区区民意識意向調査

報告書概要版

目次

第1章 調査の概要	1
第2章 調査結果	2
1. 属性	2
2. 区での住み心地	4
3. 「子育て安心」について	9
4. 「魅力ある学び支援」について	10
5. 「安心の福祉・介護」について	12
6. 「豊かな健康長寿社会」について	13
7. 「心躍るスポーツ・文化」について	14
8. 「光輝く板橋ブランド・産業活力」について	15
9. 「緑と環境共生」について	16
10. 「万全な備えの安心・安全」について	18
11. 「快適で魅力あるまち」について	19
12. 「未来創造戦略」について	21
13. 「シティプロモーション（区の魅力情報の発信）」について	21
14. 「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」について	22
15. 社会活動・地域活動等	23
16. 今後の行政サービスと負担のあり方	25
17. 板橋区職員に期待する能力・資質	27
18. その他	28
第3章 前回調査との比較	29



第1章 調査の概要

1. 調査の目的

区民の住みやすさや定住意向、区への愛着・誇りのほか、区の施策に対する意識・意向などを広く把握し、基本計画2025でめざしている「東京で一番住みたくなるまち」と評価される街に向けての基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査の実施方法

(1) 調査対象者 板橋区に居住する満18歳以上の一般区民3,000人

(2) 抽出方法 住民基本台帳から層化二段無作為抽出
(5地域ごとの登録人口規模で3,000人を按分抽出)

【地域区分】 5地域の対象地域は、以下の各地域センター管内のとおり



(3) 調査方法 郵送で調査票を配付し、郵送による返信、またはインターネット上に設置した回答専用Webページの入力

(4) 調査期間 平成29年9月13日(水)～9月27日(水)

3. 回収結果

有効回収数 1,347 (うち郵送による返信1,139、インターネットによる回答208)

有効回収率 44.9% ※前回(平成27年4月)調査 有効回収率 43.2%

第2章 調査結果

1. 属性

(1) 性別 (問1-ア)

	件数	構成比
男性	574	42.6%
女性	743	55.2
回答しない (無回答)	2	0.1
全体	1,347	100.0

(2) 年代 (問1-イ)

	件数	構成比
10歳代	11	0.8%
20歳代	135	10.0
30歳代	215	16.0
40歳代	259	19.2
50歳代	218	16.2
60～64歳	119	8.8
65～69歳	154	11.4
70～74歳	102	7.6
75歳以上	127	9.4
(無回答)	7	0.5
全体	1,347	100.0

(3) 居住地域 (問1-ウ)

	件数	構成比
板橋地域 (板橋・熊野・仲宿・仲町・富士見)	331	24.6%
常盤台地域 (大谷口・常盤台・桜川)	200	14.8
志村地域 (清水・志村坂上・中台・前野)	288	21.4
赤塚地域 (下赤塚・成増・徳丸)	279	20.7
高島平地域 (蓮根・舟渡・高島平)	243	18.0
(無回答)	6	0.4
全体	1,347	100.0

(4) 国籍 (問1-エ)

	件数	構成比
日本	1,191	88.4%
日本以外	24	1.8
(無回答)	132	9.8
全体	1,347	100.0

(5) 職業 (問1-オ)

	件数	構成比
会社員・公務員	500	37.1%
自営業・自由業	85	6.3
会社役員	33	2.4
主婦・主夫	221	16.4
学生	33	2.4
アルバイト・パート	186	13.8
無職	217	16.1
その他	50	3.7
(無回答)	22	1.6
全体	1,347	100.0

(6) 世帯構成 (問1-カ)

	件数	構成比
単身世帯	296	22.0%
夫婦のみ	287	21.3
二世帯同居(子と同居)	493	36.6
二世帯同居(親と同居)	190	14.1
三世帯同居	33	2.4
その他	41	3.0
(無回答)	7	0.5
全 体	1,347	100.0

(7) 同居家族 (問1-キ) (複数回答可)

	件数	構成比
未就学児	145	10.8%
小学生	116	8.6
中学生	75	5.6
65～74歳の家族	203	15.1
75歳以上の家族	161	12.0
その他の家族	710	52.7
(無回答)	341	25.3
全 体	1,347	100.0

(8) 住居形態 (問1-ク)

	件数	構成比
一戸建(持ち家)	447	33.2%
一戸建(賃貸)	25	1.9
マンション(持ち家)	389	28.9
マンション・アパート(賃貸)	340	25.2
都市再生機構・公社・都営・区営住宅	101	7.5
社宅・寮・間借り・住込み	32	2.4
その他(ケア付き住宅など)	6	0.4
(無回答)	7	0.5
全 体	1,347	100.0

(9) 居住年数 (問1-ケ)

	件数	構成比
1年未満	54	4.0
1年以上5年未満	168	12.5
5年以上10年未満	132	9.8
10年以上20年未満	238	17.7
20年以上	522	38.8
生まれたときから	222	16.5
(無回答)	11	0.8
全 体	1,347	100.0

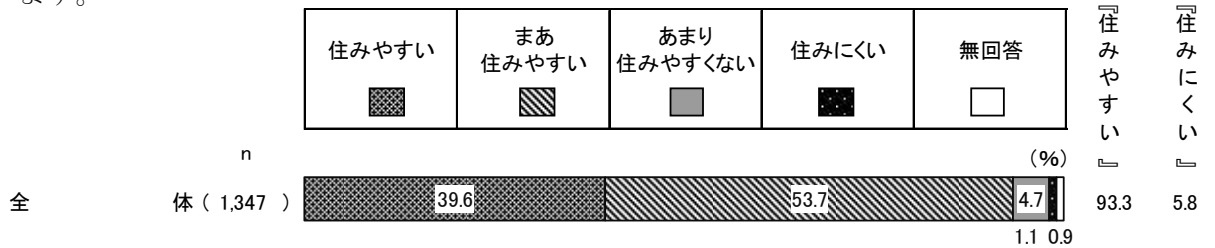
(10) 直前の居住地 (問1-コ)

	件数	構成比
東京23区内(板橋区を除く)	519	46.6%
東京都内の他市町村内	71	6.4
埼玉県内	168	15.1
千葉県・神奈川県内	85	7.6
その他(海外を含む)	180	16.2
(無回答)	91	8.2
全 体	1,114	100.0

2. 区での住み心地

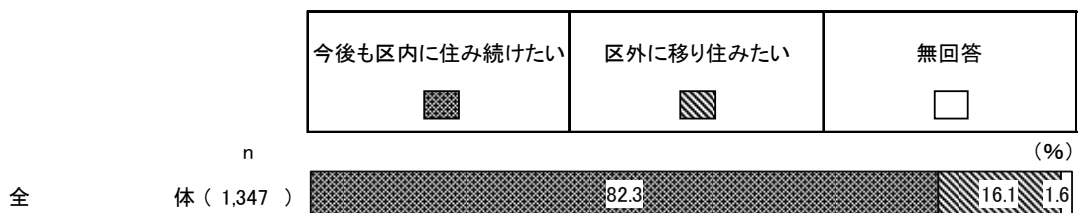
(1) 住みやすさ (問2)

板橋区の住みやすさを聞いたところ、「住みやすい」(39.6%)が約4割となり、これに「まあ住みやすい」(53.7%)を合わせた『住みやすい』(93.3%)が9割を超えています。一方、「あまり住みやすくない」(4.7%)と「住みにくい」(1.1%)を合わせた『住みにくい』(5.8%)は1割未満となっています。



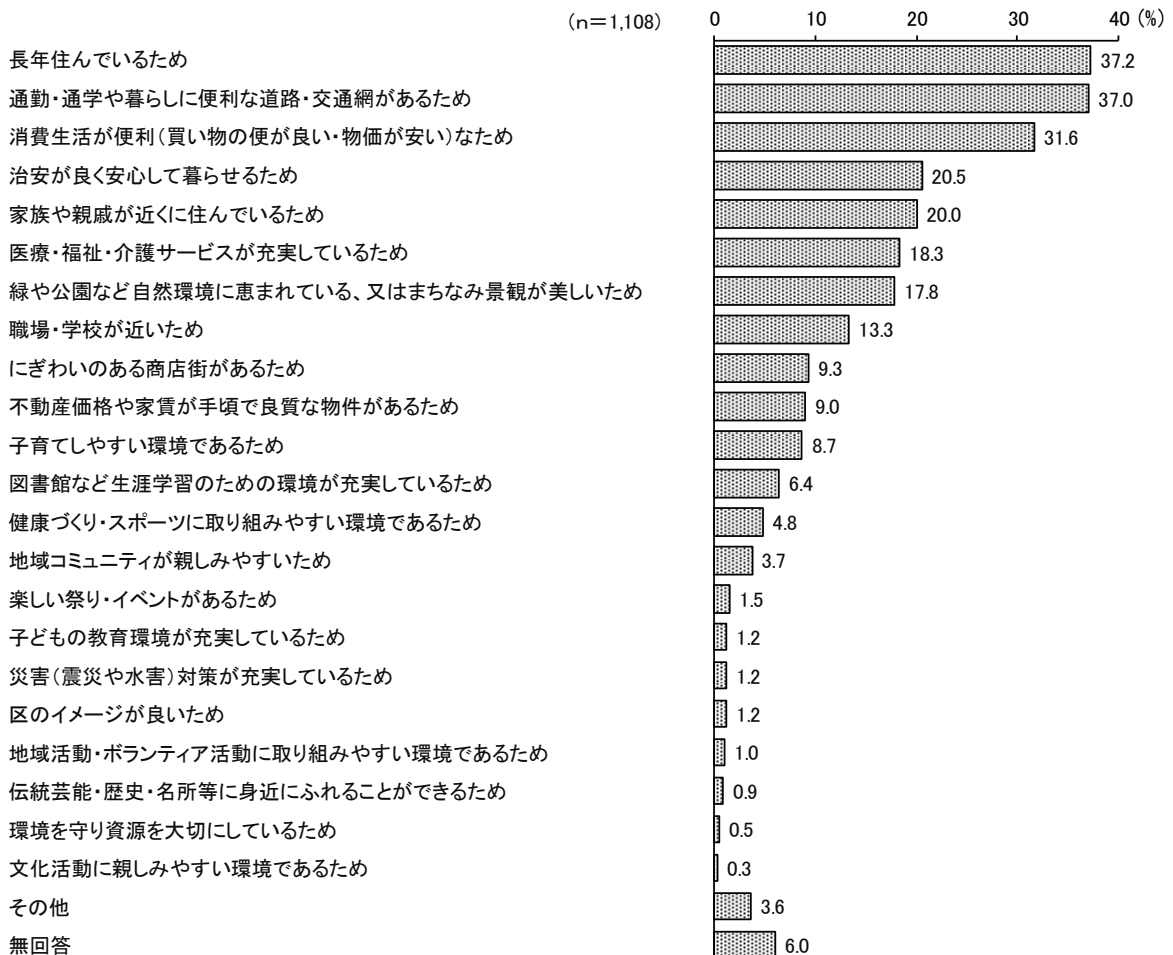
(2) 定住意向 (問3)

板橋区に住み続けたいか聞いたところ、「今後も区内に住み続けたい」(82.3%)が8割を超え、「区外に移り住みたい」(16.1%)が1割半ばとなっています。



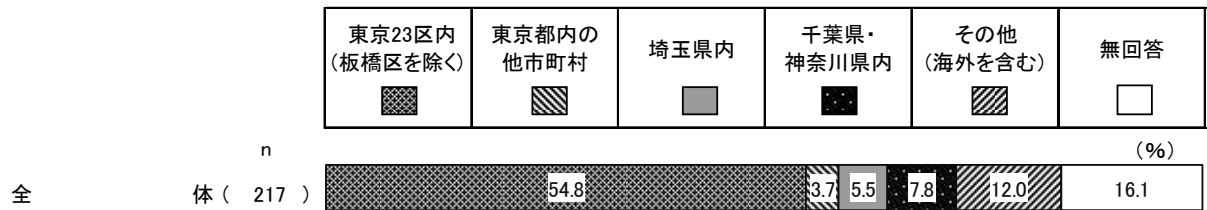
(3) 区内に住み続けたい理由 (問3-1)

問3で、「今後も区内に住み続けたい」と答えた人(1,108人)にその理由を聞いたところ、「長年住んでいるため」(37.2%)が4割近くで最も高く、次いで「通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため」(37.0%)、「消費生活が便利(買い物の便が良い・物価が安い)なため」(31.6%)、「治安が良く安心して暮らせるため」(20.5%)、「家族や親戚が近くに住んでいるため」(20.0%)などとなっています。



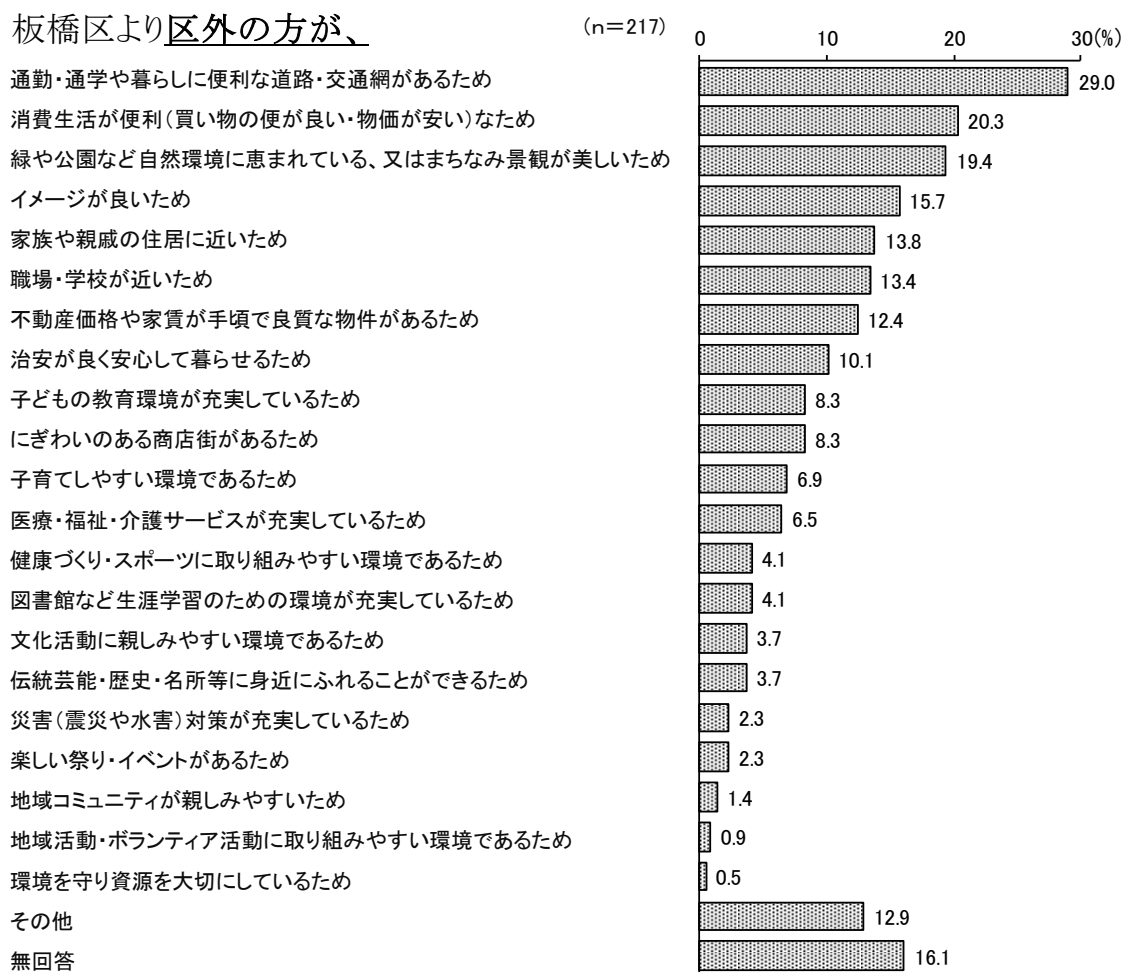
(4) 区外に移り住むとしたら住みたい地域 (問3-2)

問3で、「区外に移り住みたい」と答えた人(217人)に、区外に移り住むとしたら住みたい地域を聞いたところ、「東京23区内(板橋区を除く)」(54.8%)が5割半ばで最も高くなっています。「千葉県・神奈川県内」(7.8%)、「埼玉県内」(5.5%)、「東京都内の他市町村」(3.7%)、はいずれも1割未満となっています。



(5) 区外に移り住みたい理由 (問3-3)

問3で、「区外に移り住みたい」と答えた人(217人)にその理由を聞いたところ、板橋区よりも区外の方が、「通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため」(29.0%)が約3割で最も高く、次いで「消費生活が便利(買い物の便が良い・物価が安い)なため」(20.3%)、「緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため」(19.4%)、「イメージが良いため」(15.7%)、「家族や親戚の住居に近い」(13.8%)などとなっています。



(6) 住みたい地域（問3-2）と区外に移り住みたい理由（問3-3）

問3で、「区外に移り住みたい」と答えた人（217人）の理由を、区外に移り住むとしたら住みたい地域別にみると、板橋区よりも区外の方が、「通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため」は東京23区内（板橋区を除く）（47.1%）で、「家族や親戚の住居に近い」はその他（海外を含む）（42.3%）で第1位となっています。板橋区よりも区外の方が「緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため」は千葉県・神奈川県内（41.2%）で第1位、東京都内の他市町村（37.5%）で同率の第1位となっています。その他の特徴として、板橋区より区外の方が、「不動産価値や家賃が手頃で良質な物件があるため」は、埼玉県内（75.0%）で第1位、千葉県（17.6%）で同率の第4位、その他（海外を含む）（15.4%）で第5位となっています。

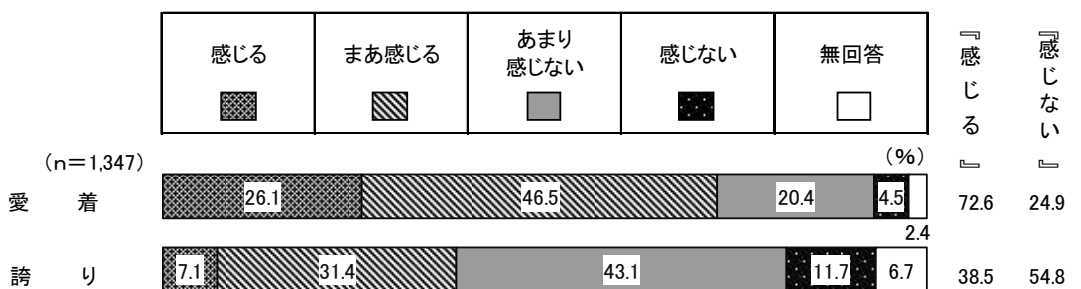
		n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体		217	通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため 29.0	消費生活が便利（買い物の便が良い・物価が安い）なため 20.3	緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため 19.4	イメージが良いため 15.7	家族や親戚の住居に近いため 13.8
区外に移り住みたい地域	東京23区内（板橋区を除く）	119	通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため 47.1	職場・学校が近い 24.4	消費生活が便利（買い物の便が良い・物価が安い）なため/イメージが良いため 22.7		緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため 17.6
	東京都内の他市町村	8	緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため/消費生活が便利（買い物の便が良い・物価が安い）なため/家族や親戚の住居に近いため 37.5			治安が良く安心して暮らせるため/イメージが良いため 25.0	
	埼玉県内	12	不動産価格や家賃が手頃で良質な物件があるため 75.0	消費生活が便利（買い物の便が良い・物価が安い）なため 33.3	子育てしやすい環境であるため/家族や親戚の住居に近いため 25.0		緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため 他※ 16.7
	千葉県・神奈川県内	17	緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため 41.2	消費生活が便利（買い物の便が良い・物価が安い）なため 29.4	家族や親戚の住居に近い 23.5	不動産価格や家賃が手頃で良質な物件があるため/通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため/その他 17.6	
	その他（海外を含む）	26	家族や親戚の住居に近い 42.3	緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため 34.6	その他 26.9	消費生活が便利（買い物の便が良い・物価が安い）なため 19.2	不動産価格や家賃が手頃で良質な物件があるため 15.4

※他の理由: 通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため/イメージが良いため/その他

(7) 板橋区に対する愛着と誇り（問4）

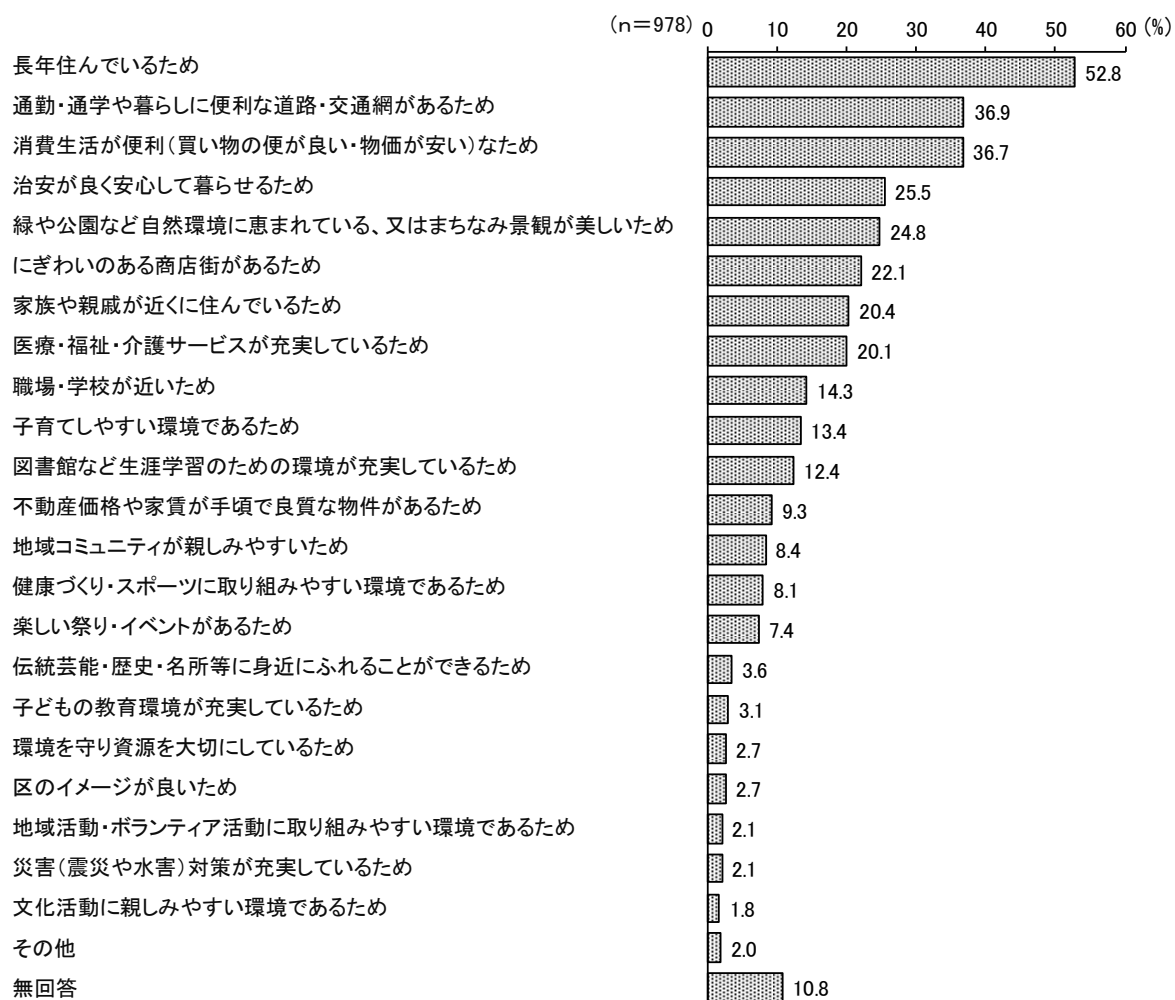
板橋区に「愛着」と「誇り」を感じるかを聞いたところ、愛着を「感じる」（26.1%）が2割半ばで、これに「まあ感じる」（46.5%）を合わせた『感じる』（72.6%）が7割を超えています。一方、「あまり感じない」（20.4%）と「感じない」（4.5%）を合わせた『感じない』（24.9%）が2割半ばとなっています。

また、誇りを「感じる」（7.1%）は1割近くで、これに「まあ感じる」（31.4%）を合わせた『感じる』（38.5%）が4割近くとなっています。一方、「あまり感じない」（43.1%）と「感じない」（11.7%）を合わせた『感じない』（54.8%）が5割半ばとなっています。



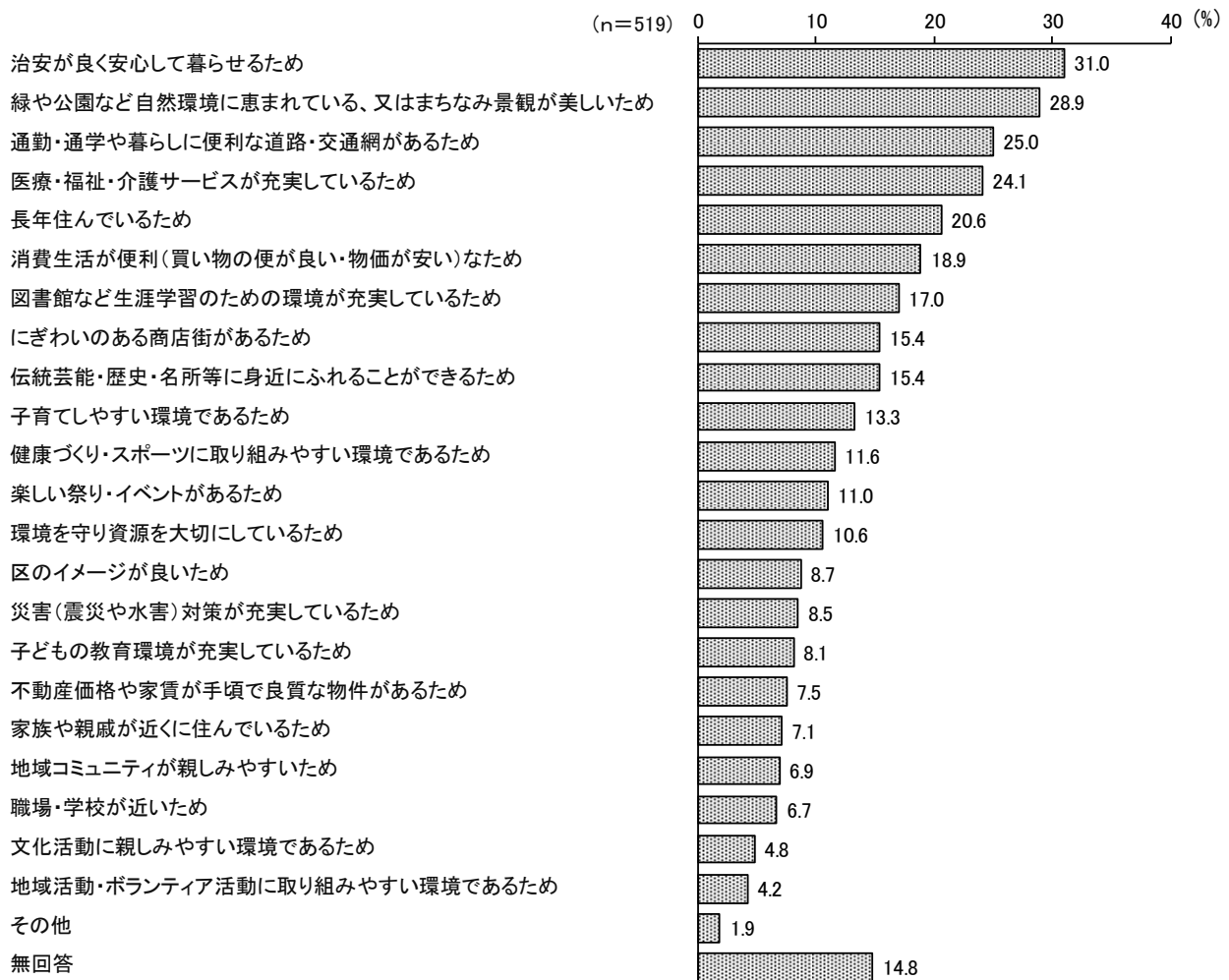
(8) 愛着を感じる理由（問4-1）

問4で、板橋区に愛着を「感じる」又は「まあ感じる」と答えた人（978人）に、その理由を聞いたところ、「長年住んでいるため」（52.8%）が5割を超えています。次いで「通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため」（36.9%）、「消費生活が便利（買い物の便が良い・物価が安い）なため」（36.7%）が3割半ば、「治安が良く安心して暮らせるため」（25.5%）、「緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため」（24.8%）が2割半ばなどとなっています。



(9) 誇りを感じる理由 (問4-1)

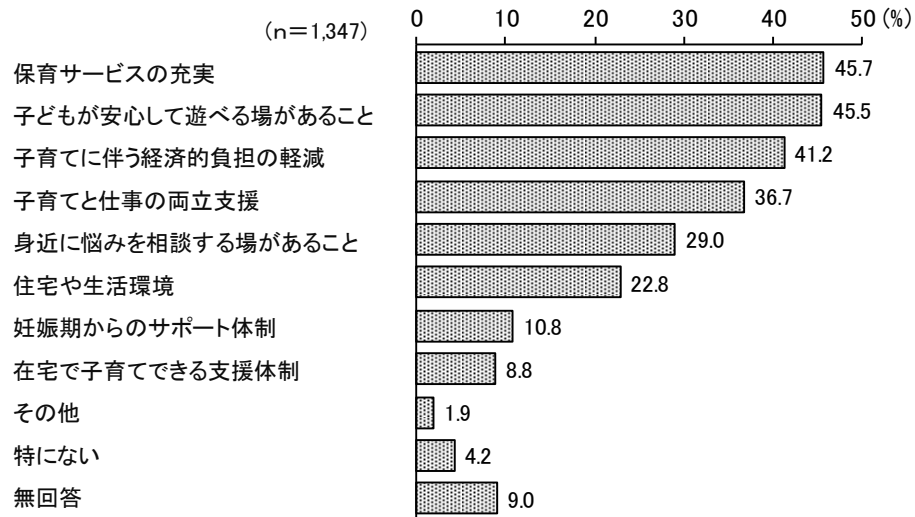
問4で、板橋区に誇りを「感じる」又は「まあ感じる」と答えた人(519人)に、その理由を聞いたところ、「治安が良く安心して暮らせるため」(31.0%)が3割を超えており、次いで「緑や公園など自然環境に恵まれている、又はまちなみ景観が美しいため」(28.9%)、「通勤・通学や暮らしに便利な道路・交通網があるため」(25.0%)、「医療・福祉・介護サービスが充実しているため」(24.1%)、「長年住んでいるため」(20.6%)が2割台などとなっています。



3. 「子育て安心」について

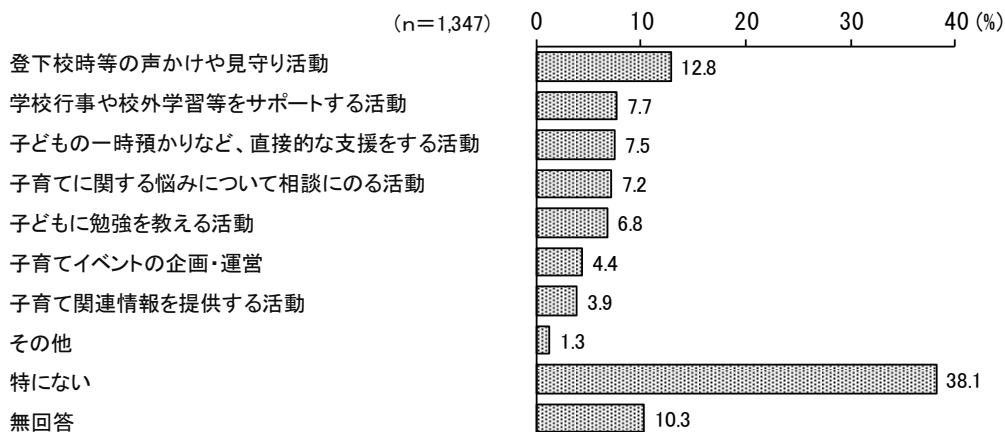
(1) 地域における子育て支援策（問5）

地域において安心して子育てができるために重要だと思うものを聞いたところ、「保育サービスの充実」（45.7%）、「子どもが安心して遊べる場があること」（45.5%）が4割半ばとなり、「子育てに伴う経済的負担の軽減」（41.2%）が4割を超えています。また、「子育てと仕事の両立支援」（36.7%）は3割半ば、「身近に悩みを相談する場があること」（29.0%）は約3割となっています。



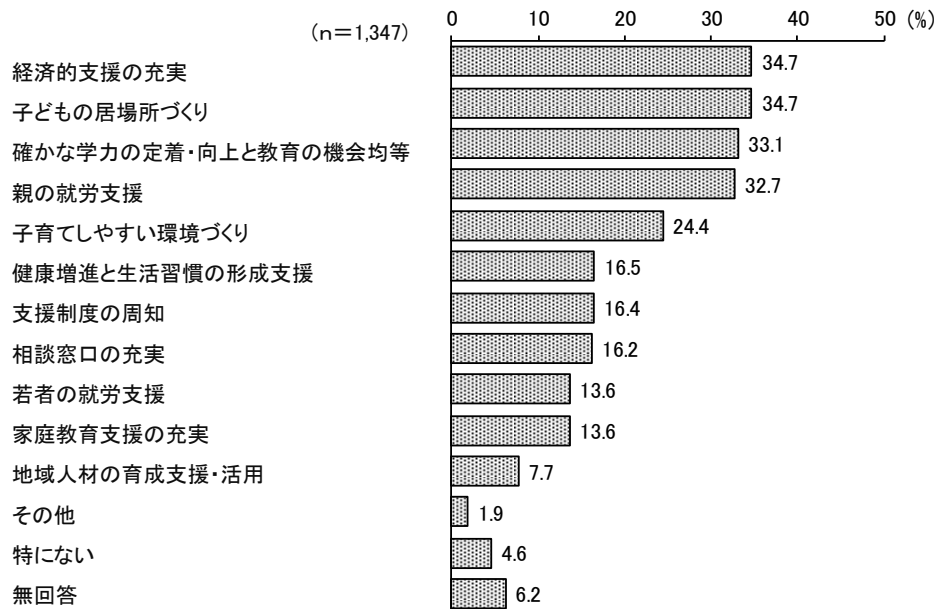
(2) 地域における子育てを支える担い手（問6）

地域における子育てを支える担い手として、参加してみたいと思うものを聞いたところ、「特にない」（38.1%）が4割近く、「登下校時等の声かけや見守り活動」（12.8%）が1割を超えています。また、「学校行事や校外学習等をサポートする活動」（7.7%）、「子どもの一時預かりなど、直接的な支援をする活動」（7.5%）、「子育てに関する悩みについて相談にのる活動」（7.2%）が1割近くとなっています。



(3) 子どもの貧困対策（問7）

子どもの貧困対策として、重要だと思えるものを聞いたところ、「経済的支援の充実」(34.7%)と「子どもの居場所づくり」(34.7%)が同率で3割半ばとなっています。次いで、「確かな学力の定着・向上と教育の機会均等」(33.1%)と「親の就労支援」(32.7%)が3割を超えています。また、「子育てしやすい環境づくり」(24.4%)は2割半ばとなっています。



4. 「魅力ある学び支援」について

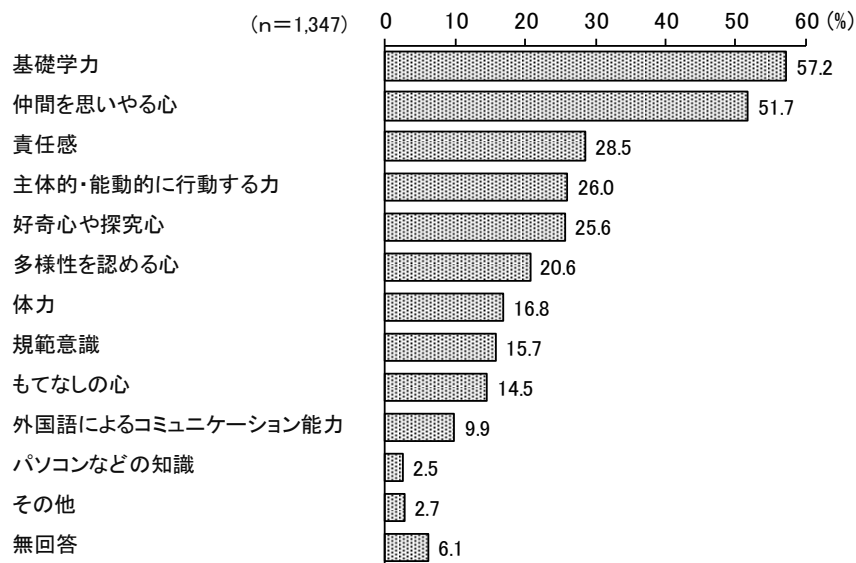
(1) 子どもたちのたくましく生きる力（問8）

子どもたちのたくましく生きる力（学力・心・体）が学校・家庭・地域における教育を通してはぐくまれていると感じるかを聞いたところ、「感じる」(9.4%)が約1割となり、これに「まあ感じる」(19.7%)を合わせた『感じる』(29.1%)が約3割となっています。一方、「あまり感じない」(10.9%)と「感じない」(4.8%)を合わせた『感じない』(15.7%)は1割半ばとなっています。また、「どちらともいえない」(24.1%)と「わからない」(25.2%)がそれぞれ2割半ばとなっています。



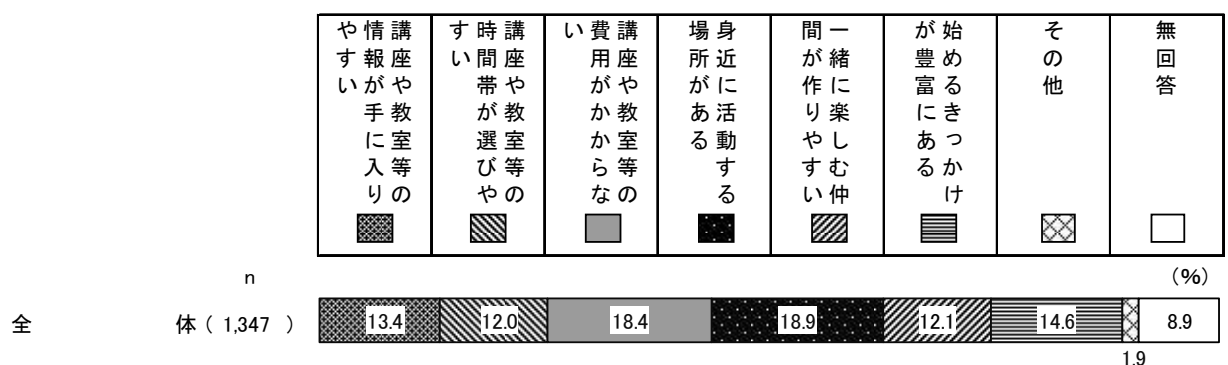
(2) 学校教育を通じて身に付けてほしい力 (問9)

学校教育を通じて、子どもたちに身に付けてほしいと思う力を聞いたところ、「基礎学力」(57.2%)が6割近く、次いで「仲間を思いやる心」(51.7%)が5割を超え、「責任感」(28.5%)、「主体的・能動的に行動する力」(26.0%)、「好奇心や探究心」(25.6%)が2割半ば以上などとなっています。



(3) 生涯学習活動に取り組む環境づくり (問10)

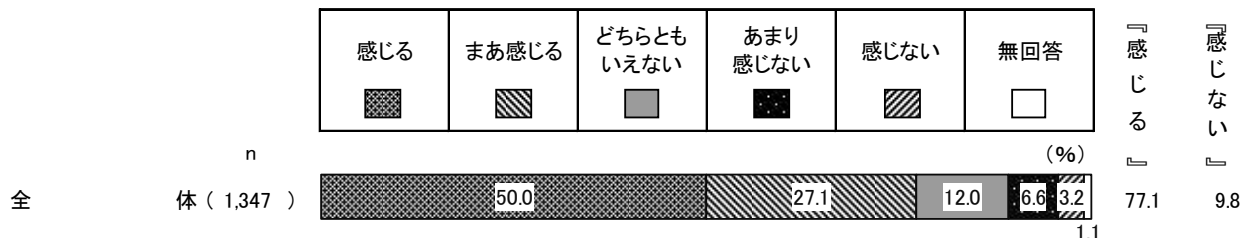
生涯学習活動に取り組むための環境づくりとして、重要だと思うことを聞いたところ、「身近に活動する場所がある」(18.9%)と「講座や教室等の費用がかからない」(18.4%)が2割近くとなっています。また、「始めるきっかけが豊富にある」(14.6%)が1割半ば、「講座や教室等の情報が手に入りやすい」(13.4%)と「一緒に楽しむ仲間が作りやすい」(12.1%)は1割を超えています。



5. 「安心の福祉・介護」について

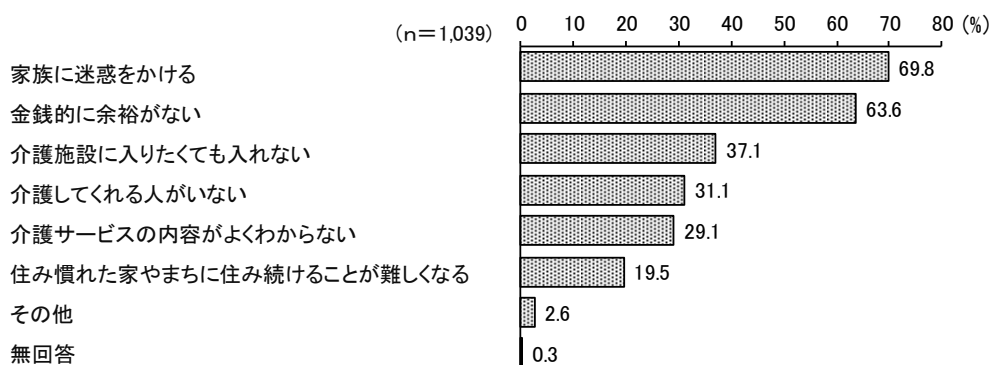
(1) 介護状態となることに対する不安（問11）

自分自身が介護を必要とする状態になることに対して、不安を感じるかを聞いたところ、「感じる」(50.0%)が5割であり、これに「まあ感じる」(27.1%)を合わせた『感じる』(77.1%)が8割近くとなっています。一方、「あまり感じない」(6.6%)と「感じない」(3.2%)を合わせた『感じない』(9.8%)は約1割となっています。また、「どちらともいえない」(12.0%)は1割を超えています。



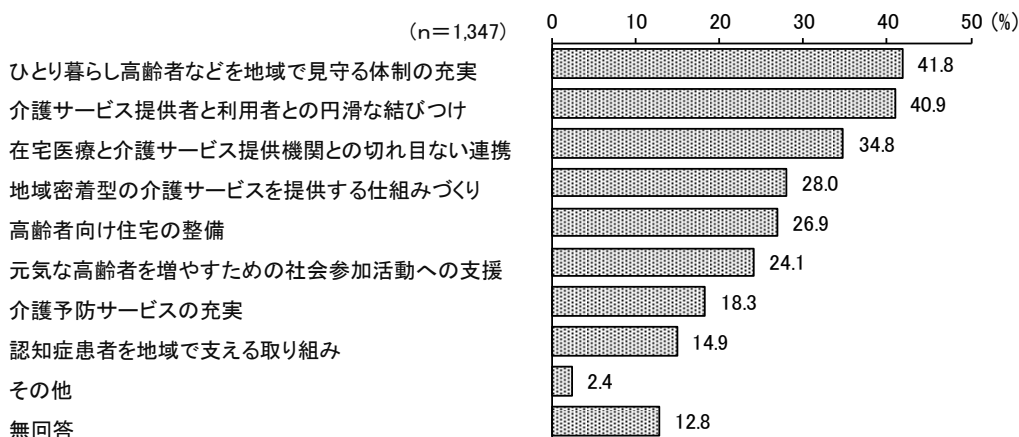
(1-1) 介護状態となることに対する不安の理由（問11-1）

介護状態となることに対する不安の理由を聞いたところ、「家族に迷惑をかける」(69.8%)が約7割となっています。次いで「金銭的に余裕がない」(63.6%)が6割を超え、「介護施設に入りたくても入れない」(37.1%)、「介護してくれる人がいない」(31.1%)が3割台、「介護サービスの内容がよくわからない」(29.1%)約3割などとなっています。



(2) 住み慣れた地域で住み続けるための支援策（問12）

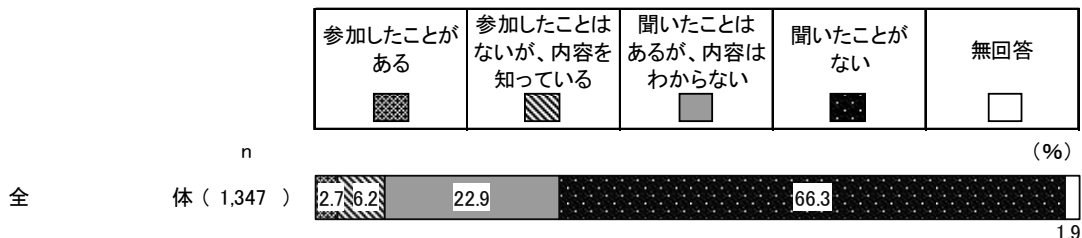
介護や医療が必要になっても住み慣れた地域で住み続けるために、重要だと思うことを聞いたところ、「ひとり暮らし高齢者などを地域で見守る体制の充実」(41.8%)が4割を超えています。次いで、「介護サービス提供者と利用者との円滑な結びつけ」(40.9%)が約4割、「在宅医療と介護サービス提供機関との切れ目ない連携」(34.8%)が3割半ば、「地域密着型の介護サービスを提供する仕組みづくり」(28.0%)、「高齢者向け住宅の整備」(26.9%)が2割台などとなっています。



6. 「豊かな健康長寿社会」について

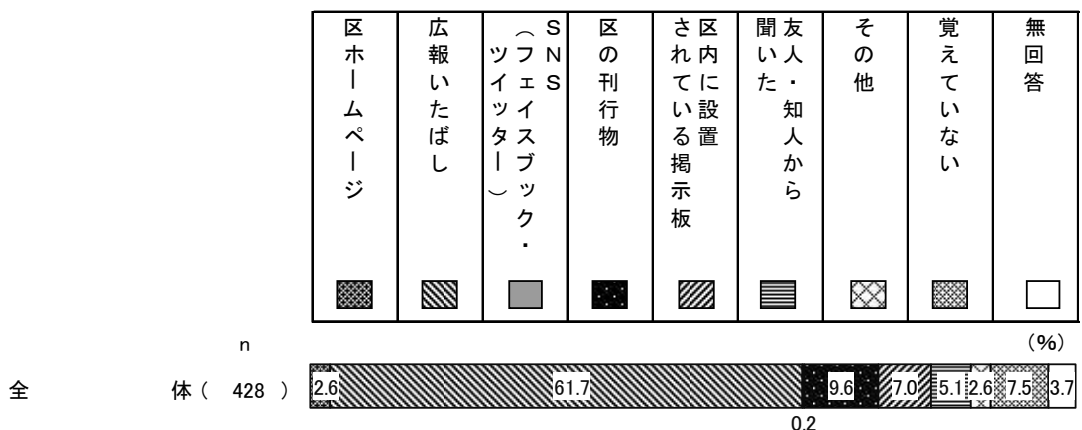
(1) 「いたばし健康づくりプロジェクト」について (問13)

「いたばし健康づくりプロジェクト」について聞いたところ、「聞いたことがない」(66.3%)が6割半ばとなっています。一方、「参加したことがある」(2.7%)、「参加したことはないが、内容を知っている」(6.2%)、「聞いたことはあるが、内容はわからない」(22.9%)を合わせると31.8%で3割を超えています。



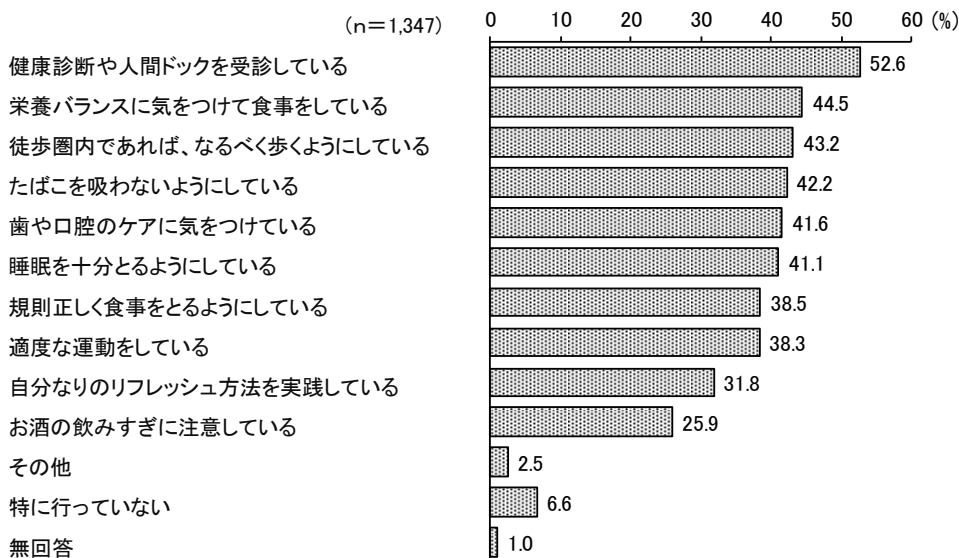
(1-1) 「いたばし健康づくりプロジェクト」をどのような方法で知ったか (問13-1)

「いたばし健康づくりプロジェクト」をどのような方法で知ったか聞いたところ、「広報いたばし」(61.7%)が6割を超えています。「区の刊行物」(9.6%)、「区内に設置されている掲示板」(7.0%)、「友人・知人から聞いた」(5.1%)、「区ホームページ」(2.6%)は1割未満などとなっています。



(2) 健康のために普段から行っていること (問14)

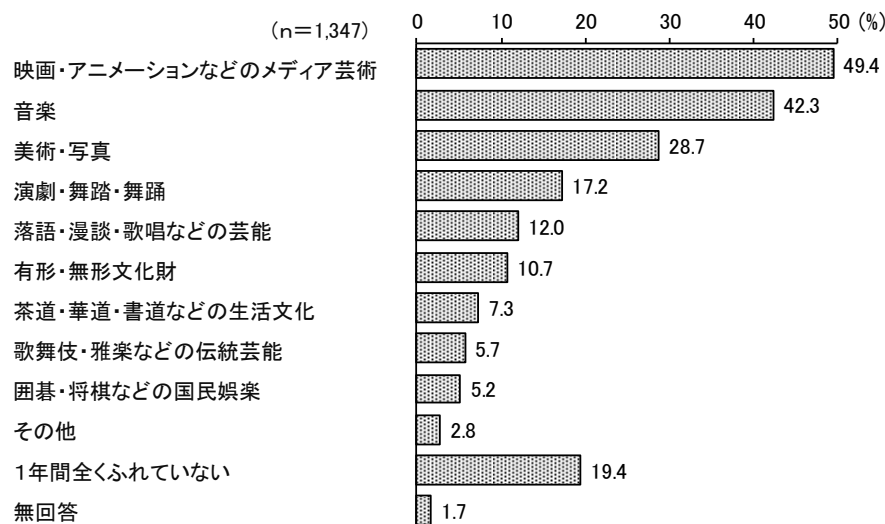
健康のために普段から行っていることを聞いたところ、「健康診断や人間ドックを受診している」(52.6%)が5割を超えています。次いで「栄養バランスに気をつけて食事をしている」(44.5%)、「徒歩圏内であれば、なるべく歩くようにしている」(43.2%)、「たばこを吸わないようにしている」(42.2%)、「歯や口腔のケアに気をつけている」(41.6%)が4割台などとなっています。



7. 「心躍るスポーツ・文化」について

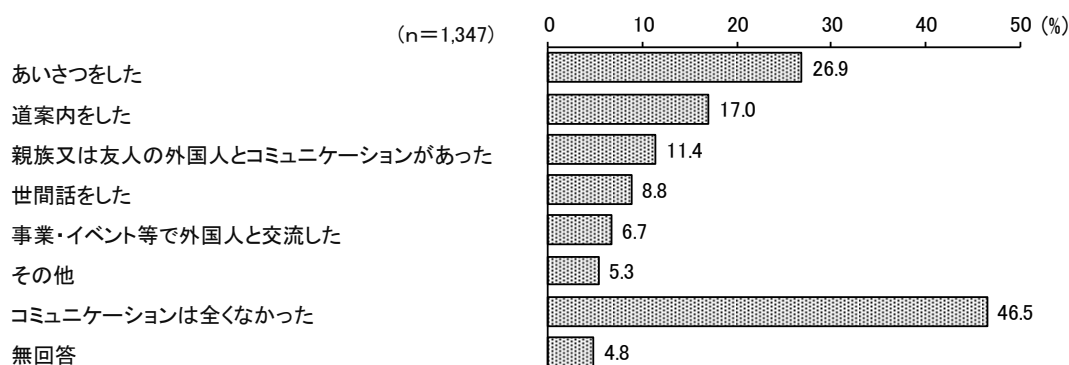
(1) 過去1年間に鑑賞・体験活動した文化芸術（問15）

過去1年の間に鑑賞した、あるいは実際に体験活動した文化芸術を聞いたところ、「映画・アニメーションなどのメディア芸術」（49.4%）が約5割となっています。次いで、「音楽」（42.3%）が4割を超え、「美術・写真」（28.7%）が3割近く、「演劇・舞踏・舞踊」（17.2%）、「落語・漫談・歌唱などの芸術」（12.0%）が1割台となっています。一方、「1年間全くふれていない」（19.4%）は約2割となっています。



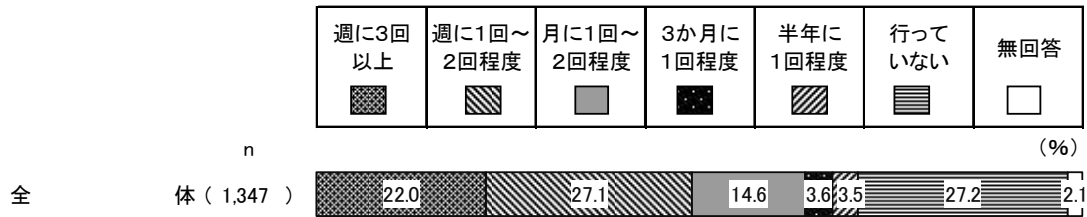
(2) 過去1年間での外国人とのコミュニケーション（問16）

過去1年間における、外国人とのコミュニケーション（あいさつや世間話、道案内等）について聞いたところ、「あいさつをした」（26.9%）が2割半ばで、次いで「道案内をした」（17.0%）、「親族又は友人の外国人とコミュニケーションがあった」（11.4%）などとなっています。「コミュニケーションは全くなかった」（46.5%）は4割半ばとなっています。



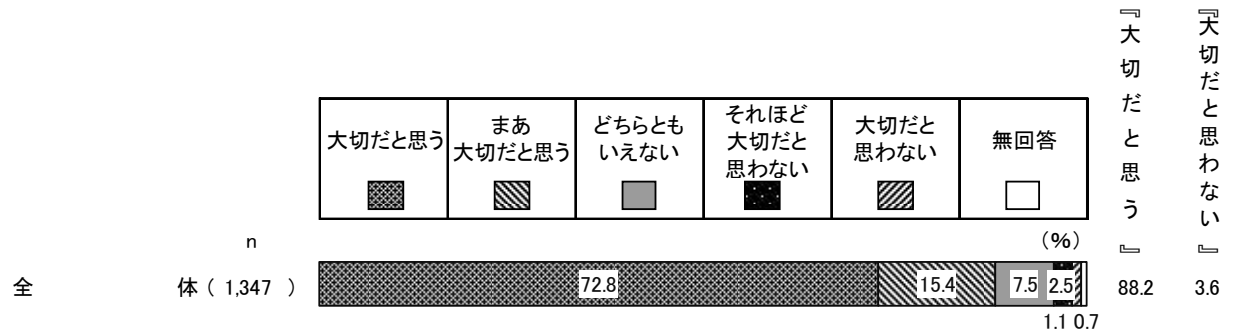
(3) 運動・スポーツの頻度 (問17)

運動やスポーツを行う頻度を聞いたところ、「行っていない」(27.2%)が3割近くとなっています。週に1回以上運動やスポーツを行っている方は、「週に1回～2回程度」(27.1%)、「週に3回以上」(22.0%)をあわせて49.1%で約5割となっています。



(4) 戦争体験の語り継ぎ (問18)

戦争体験を語り継ぐことについてどう思うかを聞いたところ、「大切だと思う」(72.8%)と「まあ大切だと思う」(15.4%)を合わせた『大切だと思う』(88.2%)が9割近くとなっています。一方、「それほど大切だと思わない」(2.5%)と「大切だと思わない」(1.1%)を合わせた『大切だと思わない』(3.6%)はわずかとなっています。



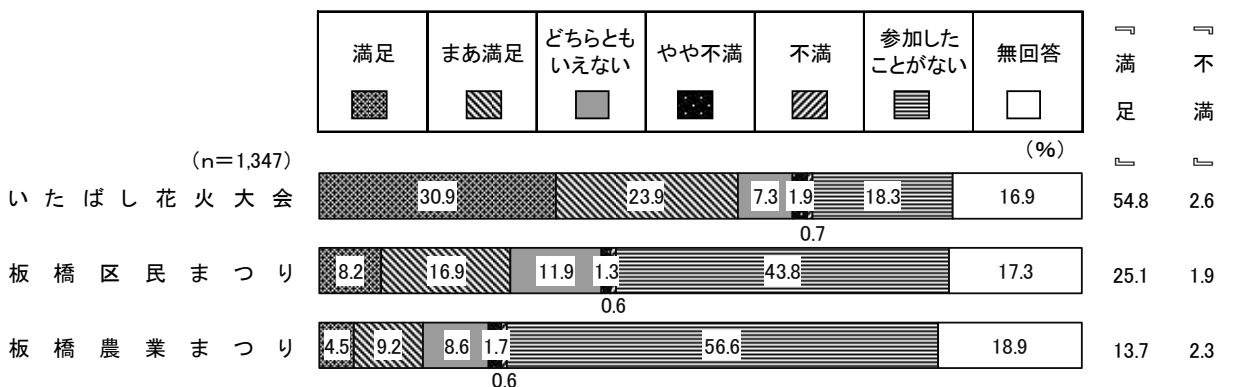
8. 「光輝く板橋ブランド・産業活力」について

(1) いたばし花火大会・板橋区民まつり・板橋農業まつりに対する満足度 (問19)

いたばし花火大会の満足度を聞いたところ、「満足」(30.9%)は約3割で、これに「まあ満足」(23.9%)を合わせた『満足』(54.8%)が5割半ばとなっています。一方、「やや不満」(1.9%)と「不満」(0.7%)を合わせた『不満』(2.6%)はわずかとなっています。また、参加したことがない(18.3%)は2割近くとなっています。

板橋区民まつりの満足度については、「満足」(8.2%)は1割未満で、これに「まあ満足」(16.9%)を合わせた『満足』(25.1%)が2割半ばとなっています。一方、「やや不満」(1.3%)と「不満」(0.6%)を合わせた『不満』(1.9%)はわずかとなっています。また、参加したことがない(43.8%)は4割を超えています。

板橋農業まつりでは、「満足」(4.5%)は1割未満で、これに「まあ満足」(9.2%)を合わせた『満足』(13.7%)が1割を超えています。一方、「やや不満」(1.7%)と「不満」(0.6%)を合わせた『不満』(2.3%)はわずかとなっています。また、参加したことがない(56.6%)は5割半ばとなっています。



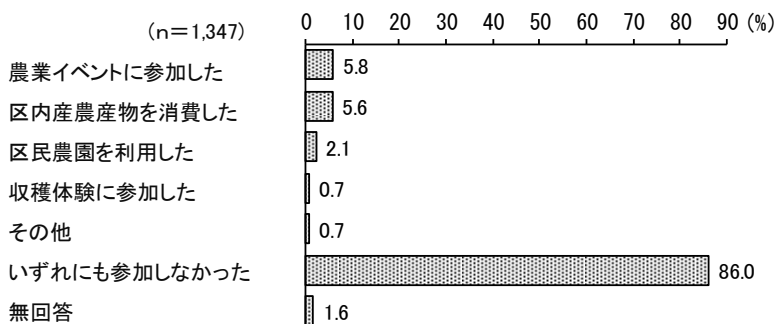
(2) 身近な商店街に対する印象 (問20)

区内の身近な商店街に対する印象を聞いたところ、「身近で便利である」(40.2%)が4割となっています。「空き店舗が多い」(18.6%)、「人通りが少ない」(13.8%)、「賑やかで活気がある」(10.8%)、はいずれも1割台となっています。



(3) 過去1年間に農業にふれた機会 (問21)

過去1年の間に区内の農業にふれる機会(板橋農業まつり参加、区内産農産物消費、区民農園活用、収穫体験参加等)があったかを聞いたところ、「いずれにも参加しなかった」(86.0%)が8割半ばとなっています。一方、何らかの区内の農業にふれる機会があったと答えた方はそれぞれ1割未満となっています。

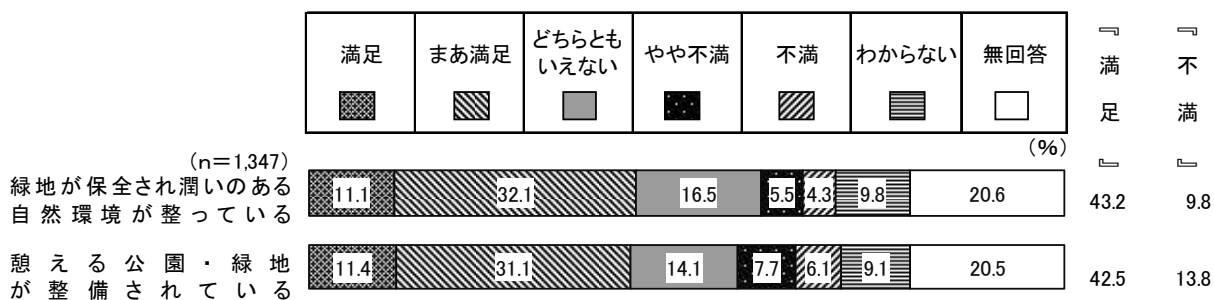


9. 「緑と環境共生」について

(1) 自然環境・公園に対する満足度 (問22)

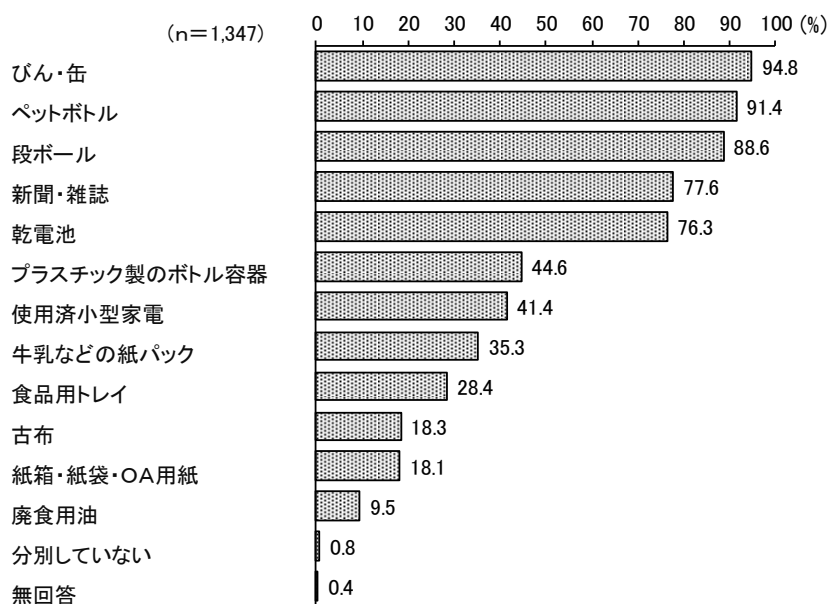
緑地が保全され潤いのある自然環境が整っていることに対する満足度を聞いたところ、「満足」(11.1%)と「まあ満足」(32.1%)を合わせた『満足』(43.2%)が4割を超えています。一方、「やや不満」(5.5%)と「不満」(4.3%)を合わせた『不満』(9.8%)は1割未満となっています。

憩える公園・緑地が整備されていることに対する満足度についても、『満足』(42.5%)が4割を超えており、『不満』(13.8%)は1割を超えています。



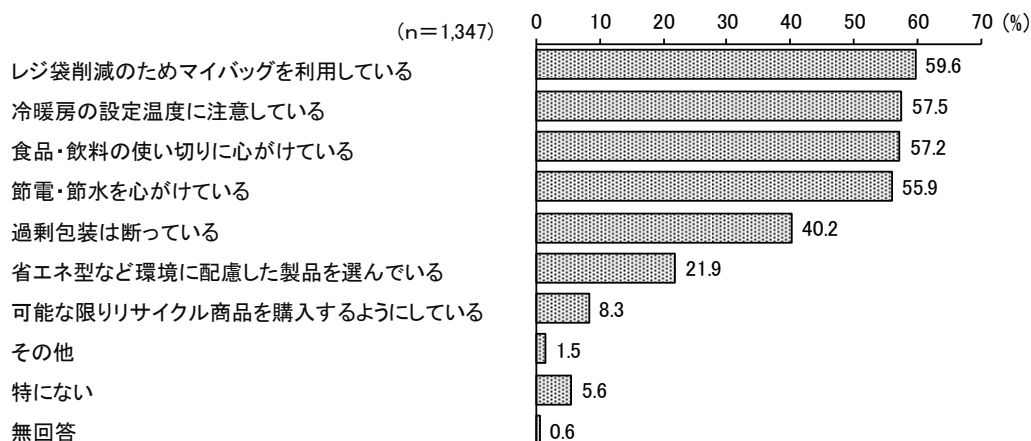
(2) 資源としてごみと分別しているもの（問23）

資源としてごみと分別しているものを聞いたところ、「びん・缶」（94.8%）、「ペットボトル」（91.4%）で9割台となっており、次いで「段ボール」（88.6%）、「新聞・雑誌」（77.6%）、「乾電池」（76.3%）などとなっています。



(3) 環境のために取り組んでいること（問24）

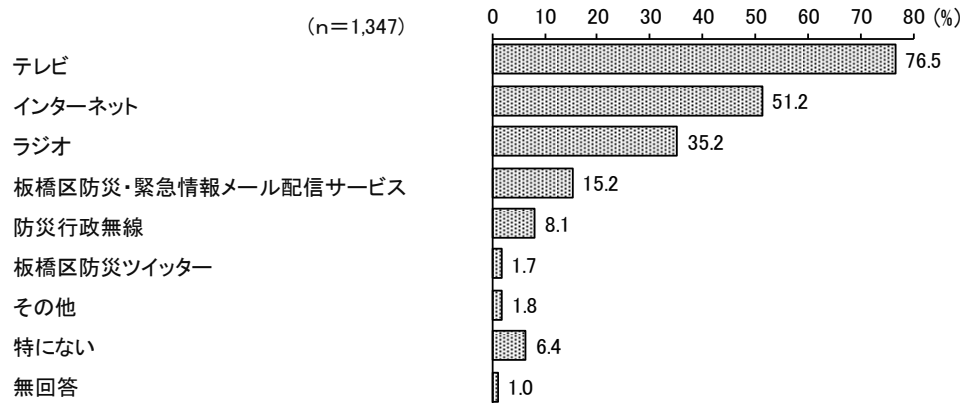
環境のために取り組んでいることを聞いたところ、「レジ袋削減のためマイバッグを利用している」（59.6%）が約6割となっています。次いで「冷暖房の設定温度に注意している」（57.5%）、「食品・飲料の使い切りに心がけている」（57.2%）、「節電・節水を心がけている」（55.9%）が5割台となっています。一方、「特にない」（5.6%）は1割未満となっています。



10. 「万全な備えの安心・安全」について

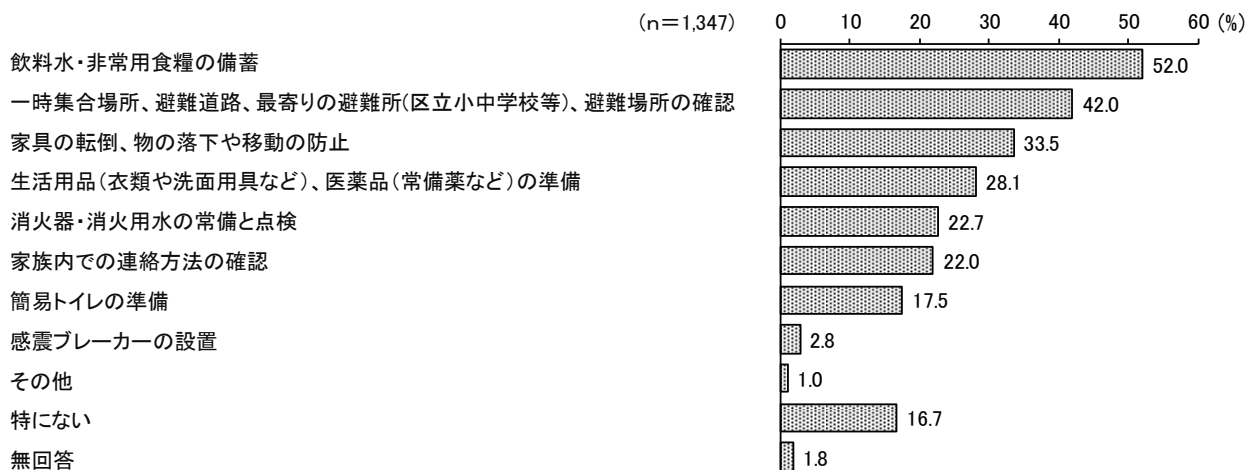
(1) 災害情報を収集するための手段（問25）

災害情報を収集するための手段について聞いたところ、「テレビ」(76.5%)が7割半ばとなり、次いで「インターネット」(51.2%)、「ラジオ」(35.2%)、「板橋区防災・緊急情報メール配信サービス」(15.2%)、「防災行政無線」(8.1%)と続いています。



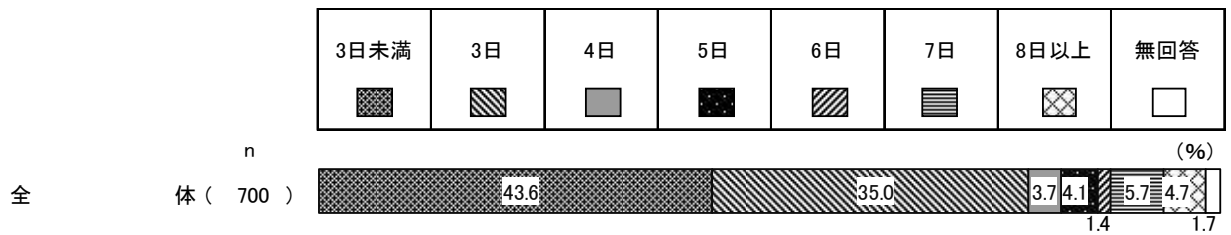
(2) 災害に備えた家庭内での対策（問26）

災害に備えた家庭内での対策を聞いたところ、「飲料水・非常用食料の備蓄」(52.0%)が5割を超え、次いで「一時集合場所、避難道路、最寄りの避難所(区立小中学校等)、避難場所の確認」(42.0%)、「家具の転倒、物の落下や移動の防止」(33.5%)、「生活用品(衣類や洗面用具など)、医薬品(常備薬など)の準備」(28.1%)、「消火器・消火用水の常備と点検」(22.7%)と続いています。



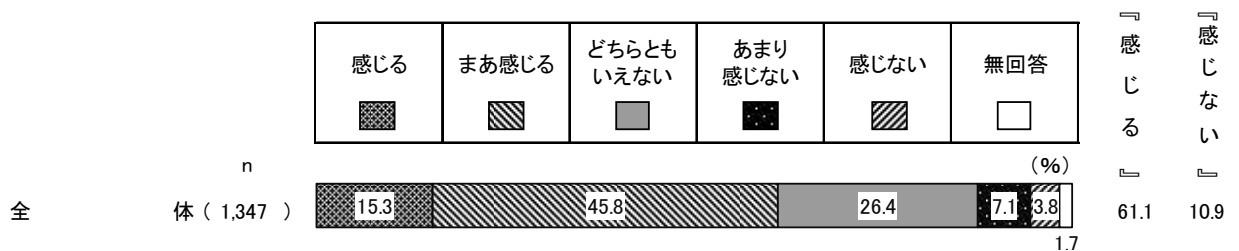
(2-1) 飲料水・非常用食糧の備蓄日数 (問26-1)

飲料水・非常用食糧を備蓄していると答えた人(700人)に、およそ何日分の備蓄をしているかを聞いたところ、「3日未満」(43.6%)が4割を超えています。次いで、「3日」(35.0%)、「7日」(5.7%)、「8日以上」(4.7%)などとなっています。



(3) お住まいの地域の治安 (問27)

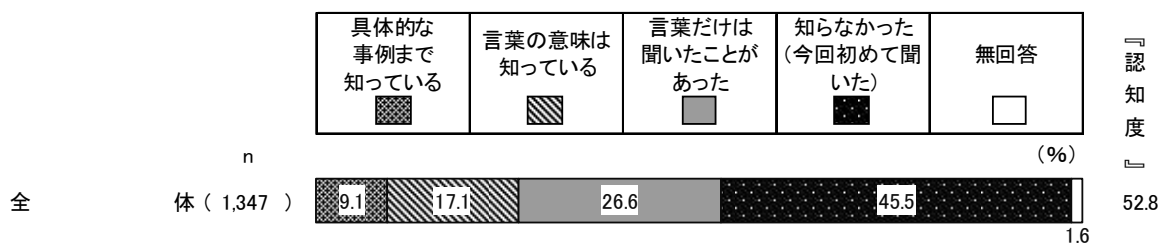
お住まいの地域の治安が保たれていると感じるかを聞いたところ、「感じる」(15.3%)が1割半ばとなり、これに「まあ感じる」(45.8%)を合わせた『感じる』(61.1%)が6割を超えています。一方、「あまり感じない」(7.1%)と「感じない」(3.8%)を合わせた『感じない』(10.9%)は約1割となっています。



11. 「快適で魅力あるまち」について

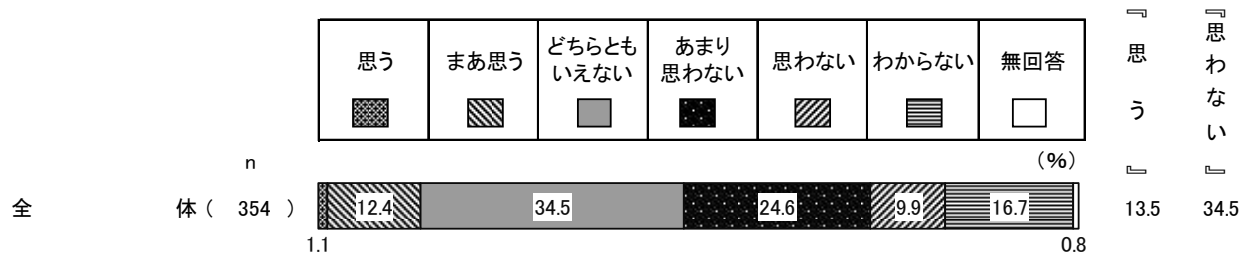
(1) 「ユニバーサルデザイン」の認知度 (問28)

ユニバーサルデザインをどの程度知っているか聞いたところ、「具体的な事例まで知っている」(9.1%)、「言葉の意味は知っている」(17.1%)と「言葉だけは聞いたことがあった」(26.6%)を合わせた『認知度』(52.8%)は5割を超えています。一方、「知らなかった(今回初めて聞いた)」(45.5%)が4割半ばとなっています。



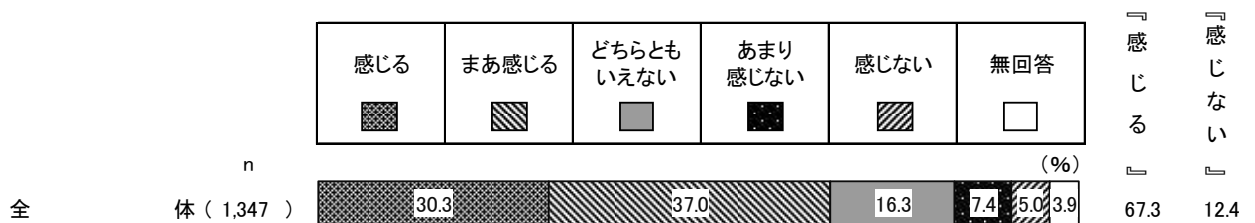
(1-1) 取り組みの進捗状況 (問28-1)

ユニバーサルデザインの取り組みが進んでいると思うかを聞いたところ、「思う」(1.1%)と「まあ思う」(12.4%)を合わせた『思う』(13.5%)が1割を超えています。一方、「あまり思わない」(24.6%)と「思わない」(9.9%)を合わせた『思わない』(34.5%)は3割半ばとなっています。また、「どちらともいえない」(34.5%)は3割半ばとなっています。



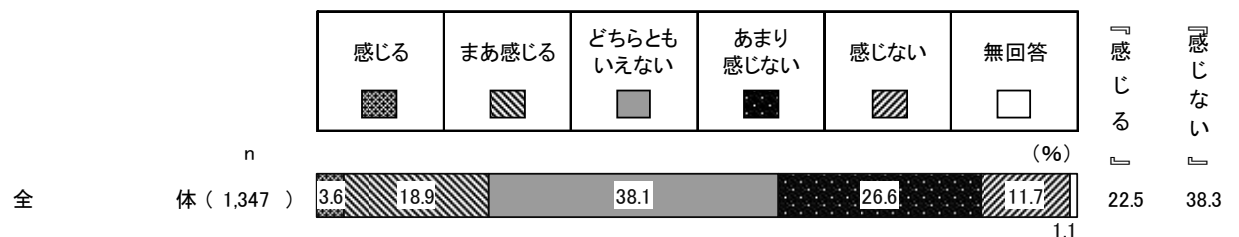
(2) 電車やバスの利用しやすさ (問29)

板橋区内において電車やバスが利用しやすいと感じているかを聞いたところ、「感じる」(30.3%)と「まあ感じる」(37.0%)を合わせた『感じる』(67.3%)が7割近くとなっています。一方、「あまり感じない」(7.4%)と「感じない」(5.0%)を合わせた『感じない』(12.4%)は1割を超えています。また「どちらともいえない」(16.3%)は1割半ばとなっています。



(3) 建築物等とまちなみとの調和 (問30)

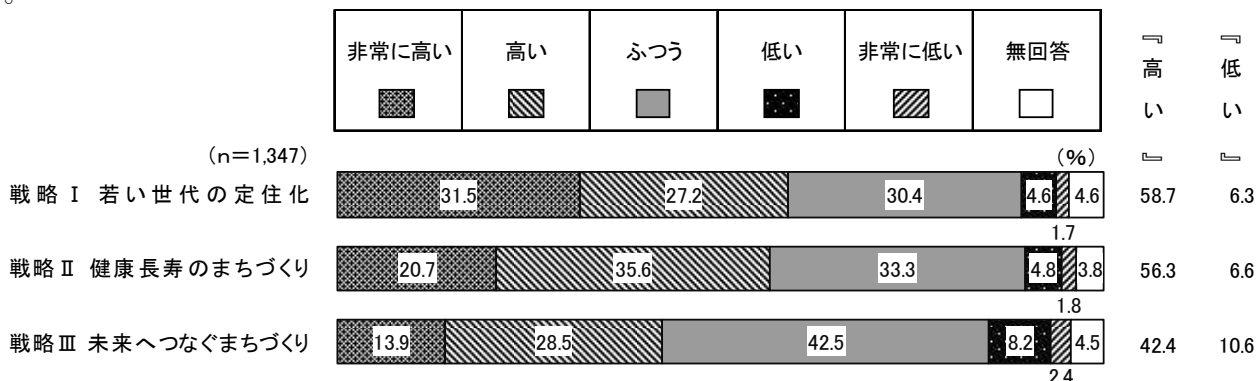
建築物等(建物の色や形、屋外広告物、公園や緑地など)が区のまちなみと調和して美しいと感じるかを聞いたところ、「感じる」(3.6%)と「まあ感じる」(18.9%)を合わせた『感じる』(22.5%)が2割を超えています。一方、「あまり感じない」(26.6%)と「感じない」(11.7%)を合わせた『感じない』(38.3%)は4割近くとなっています。また「どちらともいえない」(38.1%)も4割近くとなっています。



12. 「未来創造戦略」について

(1) 未来創造戦略の重要度 (問31)

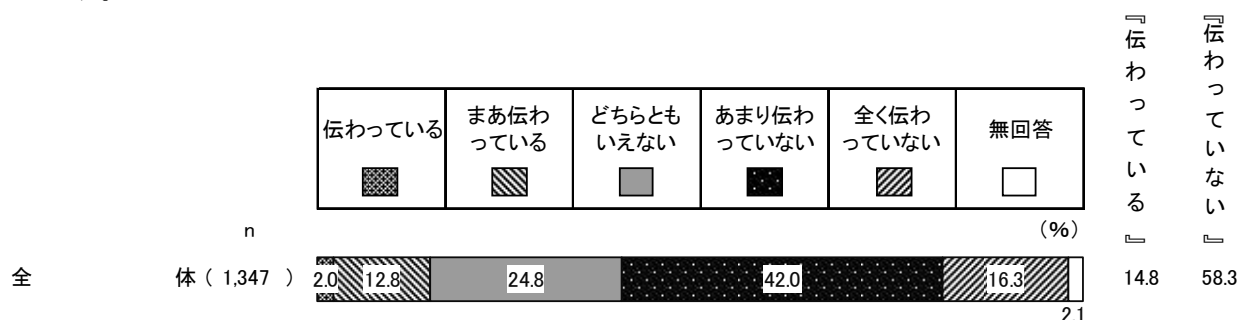
板橋区の掲げる未来創造戦略の重要度を聞いたところ、(戦略Ⅰ)若い世代の定住化では、「非常に高い」(31.5%)と「高い」(27.2%)を合わせた『高い』(58.7%)が6割近くと3つの戦略の中で最も高くなっており、次いで(戦略Ⅱ)健康長寿のまちづくりの『高い』(56.3%)が5割半ば、(戦略Ⅲ)未来へつなぐまちづくりの『高い』(42.4%)が4割を超えています。一方、「低い」と「非常に低い」を合わせた『低い』は(戦略Ⅲ)未来へつなぐまちづくり(10.6%)で約1割となっています。



13. 「シティプロモーション (区の魅力情報の発信)」について

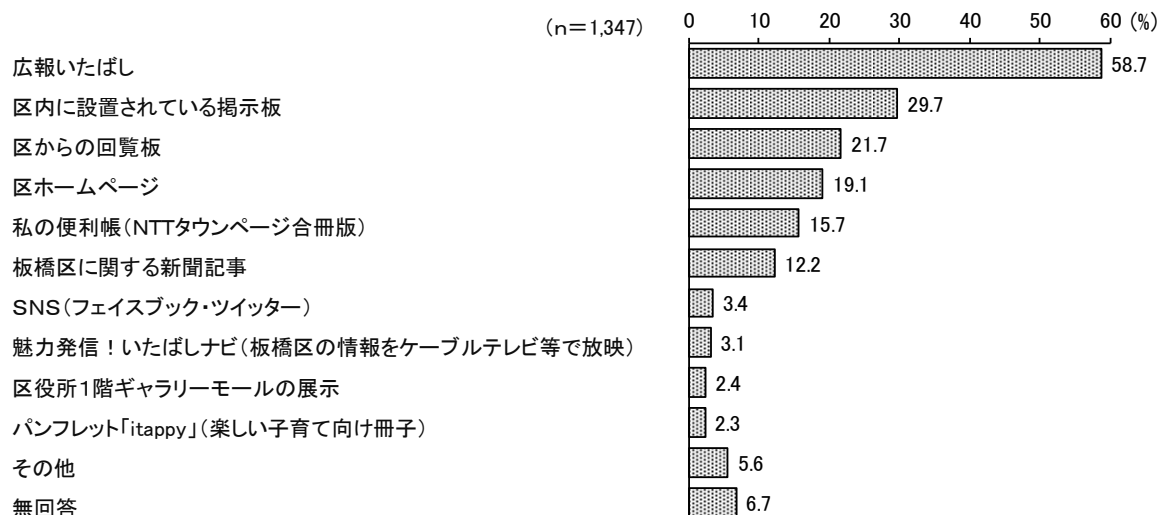
(1) 区が発信する情報の伝達度 (問32)

区からの情報が十分に伝わっていると思うかを聞いたところ、「伝わっている」(2.0%)と「まあ伝わっている」(12.8%)を合わせた『伝わっている』(14.8%)は1割半ばとなっています。一方、「あまり伝わっていない」(42.0%)と「全く伝わっていない」(16.3%)を合わせた『伝わっていない』(58.3%)が6割近くとなっています。また「どちらともいえない」(24.8%)は2割半ばとなっています。



(2) 区に関する情報の入手方法 (問33)

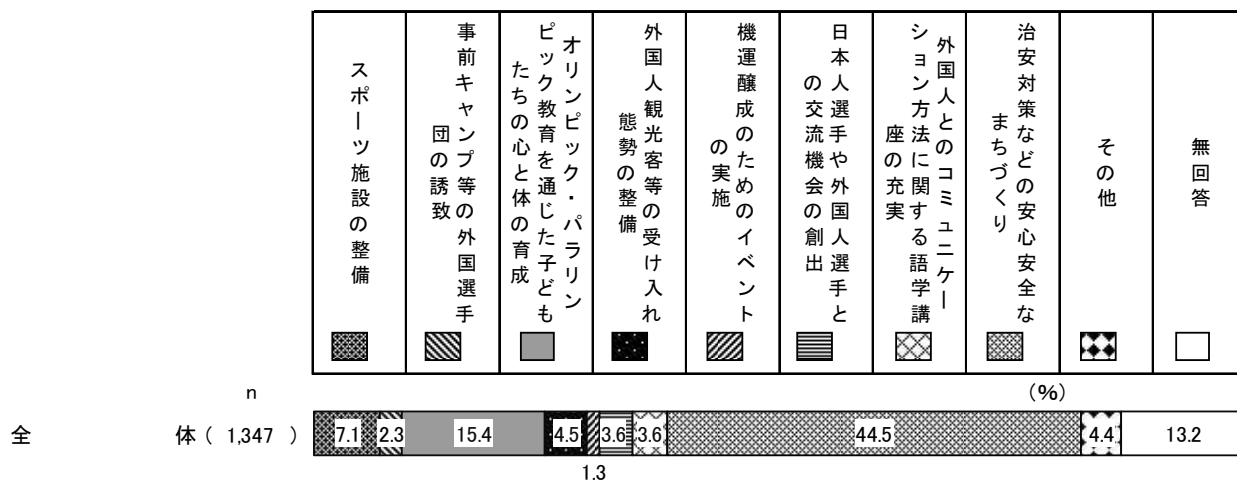
板橋区に関する情報の取得先を聞いたところ、「広報いたばし」(58.7%)が6割近くになっています。次いで「区内に設置されている掲示板」(29.7%)、「区からの回覧板」(21.7%)、「区ホームページ」(19.1%)、「私の便利帳(NTTタウンページ合冊版)」(15.7%)などとなっています。



14. 「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」について

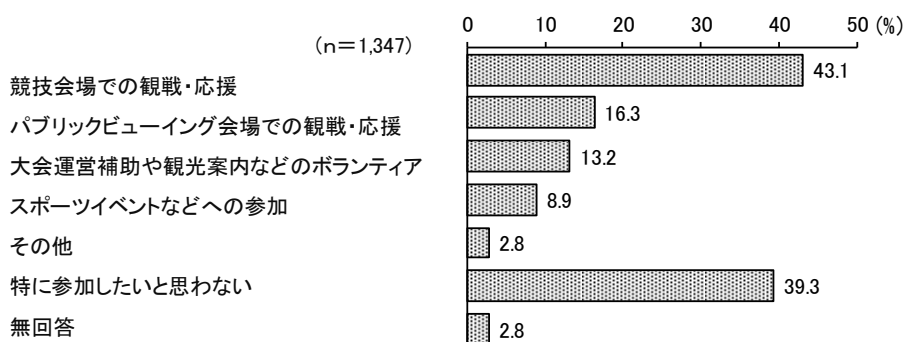
(1) 区に期待すること（問34）

東京2020大会に向けて板橋区に最も期待することを聞いたところ、「治安対策などの安心安全なまちづくり」(44.5%)が4割半ばとなっています。次いで「オリンピック・パラリンピック教育を通じた子どもたちの心と体の育成」(15.4%)、「スポーツ施設の整備」(7.1%)、「外国人観光客等の受け入れ態勢の整備」(4.5%)などとなっています。



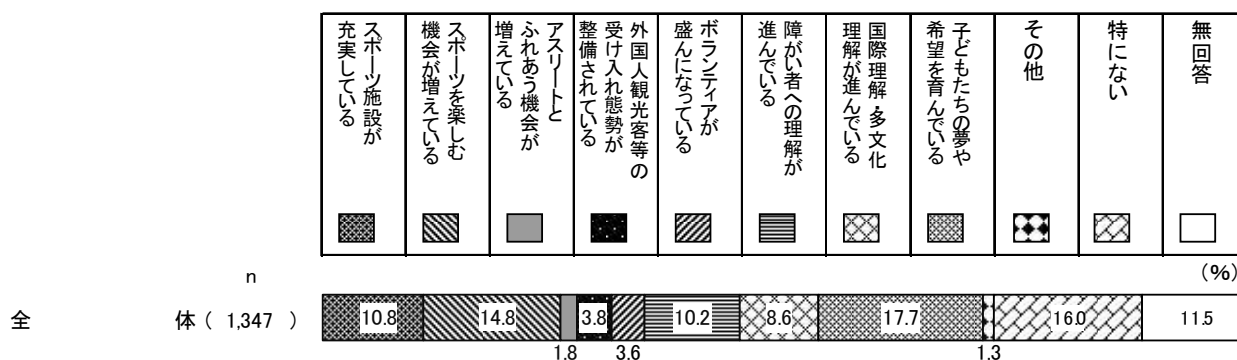
(2) 「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の参加方法（関わり方）（問35）

東京2020大会にどのような形で参加したい（関わりたい）か聞いたところ、「競技会場での観戦・応援」(43.1%)が4割を超え、次いで「パブリックビューイング会場での観戦・応援」(16.3%)、「大会運営補助や観光案内などのボランティア」(13.2%)、「スポーツイベントなどへの参加」(8.9%)となっています。一方、「特に参加したいと思わない」(39.3%)が約4割となっています。



(3) レガシー（遺産）として期待すること（問36）

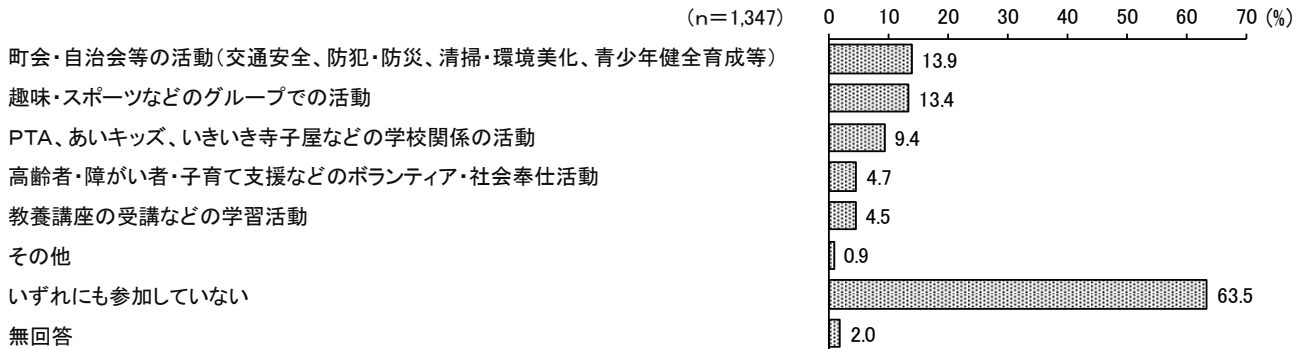
東京2020大会終了後、区内のレガシー（遺産）として最も期待するものを聞いたところ、「子どもたちの夢や希望を育んでいる」(17.7%)が2割近くとなっています。次いで、「スポーツを楽しむ機会が増えている」(14.8%)、「スポーツ施設が充実している」(10.8%)、「障がい者への理解が進んでいる」(10.2%)、「国際理解・多文化理解が進んでいる」(8.6%)などとなっています。一方、「特にない」(16.0%)は1割半ばとなっています。



15. 社会活動・地域活動等

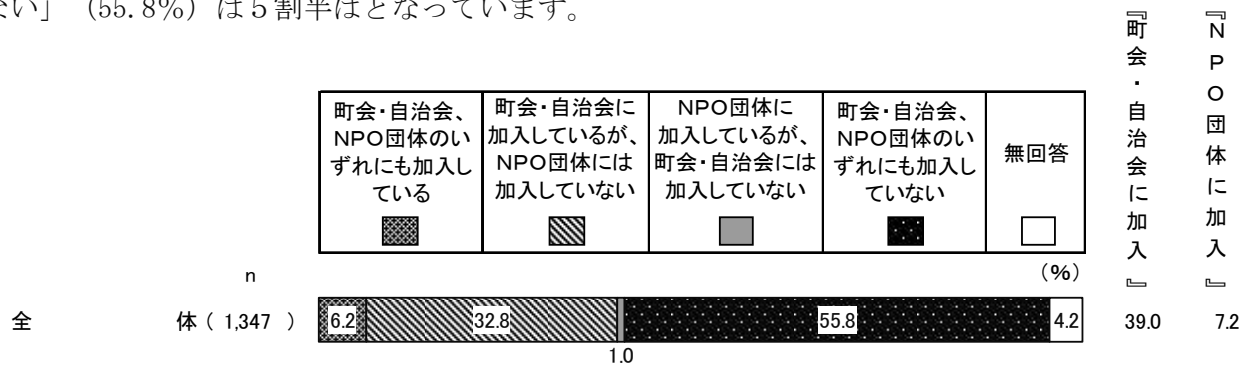
(1) 社会活動・地域活動等への参加状況（問37）

「町会・自治会等の活動」（13.9%）と「趣味・スポーツなどのグループでの活動」（13.4%）が1割を超えています。一方、過去1年間に参加した社会活動・地域活動等について聞いたところ、「いずれにも参加していない」（63.5%）が6割を超えています。



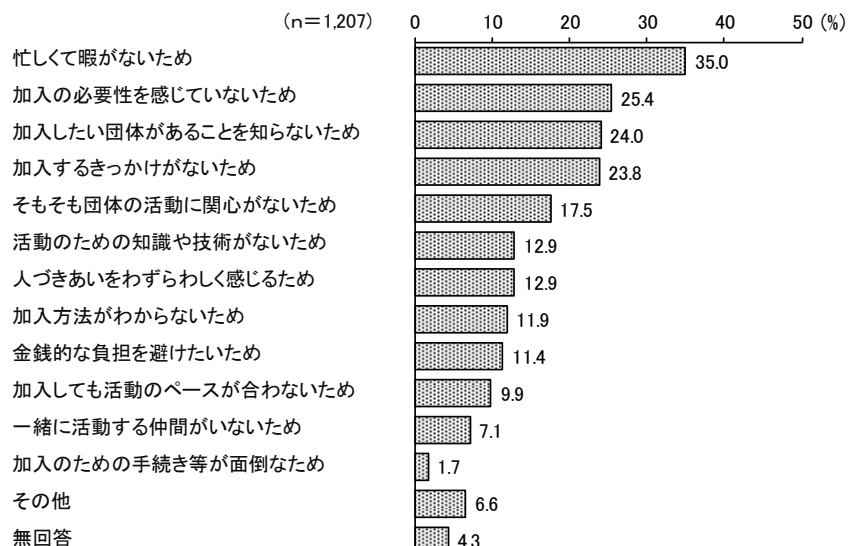
(2) 町会・自治会、NPO団体への加入状況（問38）

現在、町会・自治会やNPO団体に参加しているかを聞いたところ、「町会・自治会、NPO団体のいずれにも加入している」（6.2%）と、「町会・自治会に参加しているが、NPO団体には加入していない」（32.8%）を合わせた『町会・自治会に参加』（39.0%）は約4割、「NPO団体に参加しているが、町会・自治会には加入していない」（1.0%）を合わせた『NPO団体に参加』（7.2%）は1割未満となっています。一方、「町会・自治会、NPO団体のいずれにも加入していない」（55.8%）は5割半ばとなっています。



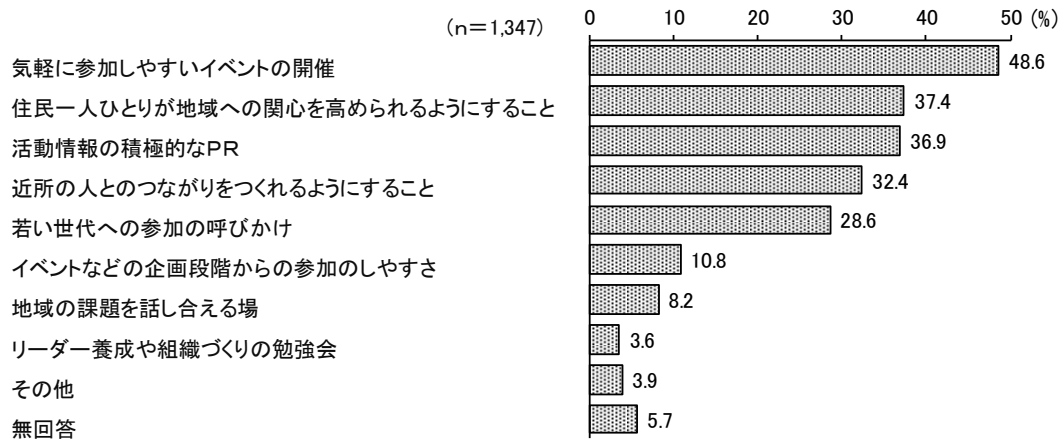
(2-1) 町内会・自治会、NPO団体に参加していない理由（問38-1）

問38で、「町会・自治会に参加しているが、NPO団体には加入していない」、「NPO団体には加入しているが、町会・自治会には加入していない」又は「町会・自治会、NPO団体のいずれにも加入していない」と答えた人（1,207人）に、その理由を聞いたところ、「忙しくて暇がないため」（35.0%）が3割半ばで、次いで「加入の必要性を感じていないため」（25.4%）、「加入したい団体があることを知らないため」（24.0%）、「加入するきっかけがないため」（23.8%）、「そもそも団体の活動に関心がないため」（17.5%）などとなっています。



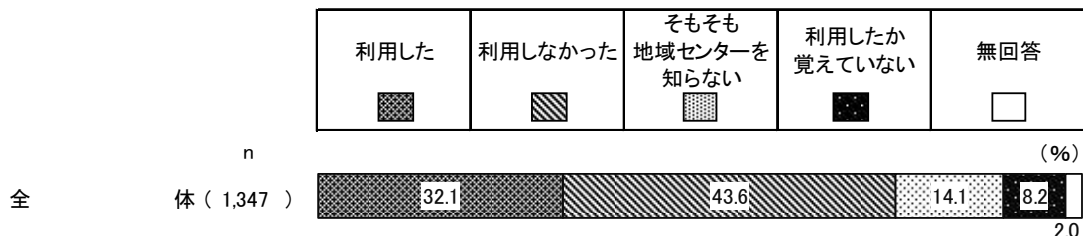
(3) 地域の活動を活発にするために必要なこと (問39)

地域の活動を活発にするために必要なことを聞いたところ、「気軽に参加しやすいイベントの開催」(48.6%)が5割近くとなっており、次いで「住民一人ひとりが地域への関心を高められるようにすること」(37.4%)、「活動情報の積極的なPR」(36.9%)、「近所の人とのつながりをつくれるようにすること」(32.4%)、「若い世代への参加の呼びかけ」(28.6%)などとなっています。



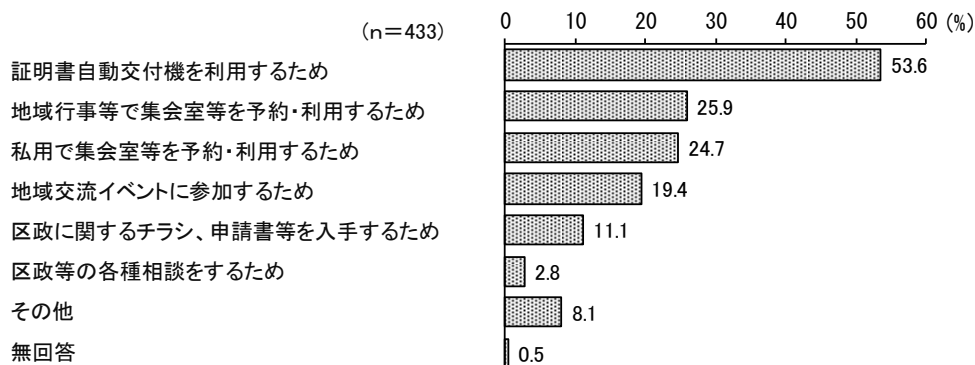
(4) 過去3年間における地域センターの利用状況 (問40)

過去3年間における地域センターの利用状況を聞いたところ、「利用した」(32.1%)が3割を超えています。一方、「利用しなかった」(43.6%)は4割を超え、「そもそも地域センターを知らない」(14.1%)は1割半ばとなっています。



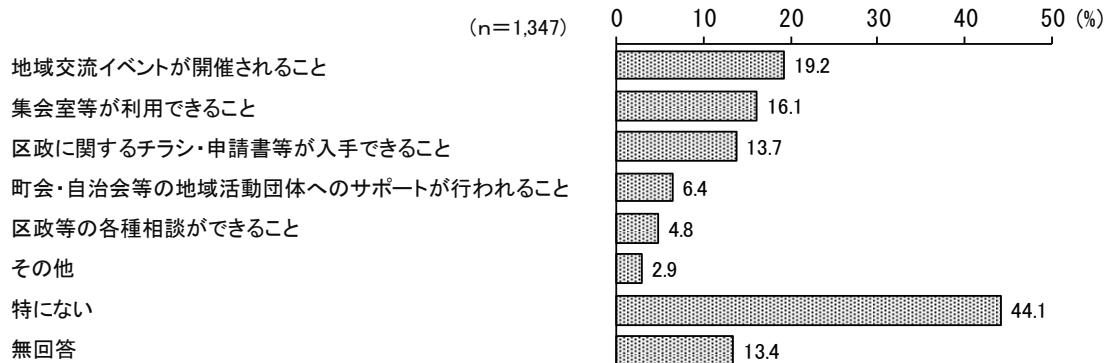
(4-1) 地域センターの利用目的 (問40-1)

過去3年間に地域センターを利用したと答えた人(433人)に、地域センターを利用した目的を聞いたところ、「証明書自動交付機を利用するため」(53.6%)が5割を超え、次いで「地域行事等で集会室等を予約・利用するため」(25.9%)、「私用で集会室等を予約・利用するため」(24.7%)、「地域交流イベントに参加するため」(19.4%)、「区政に関するチラシ、申請書等を入手するため」(11.1%)などとなっています。



(5) 地域センターに求めるサービス（問41）

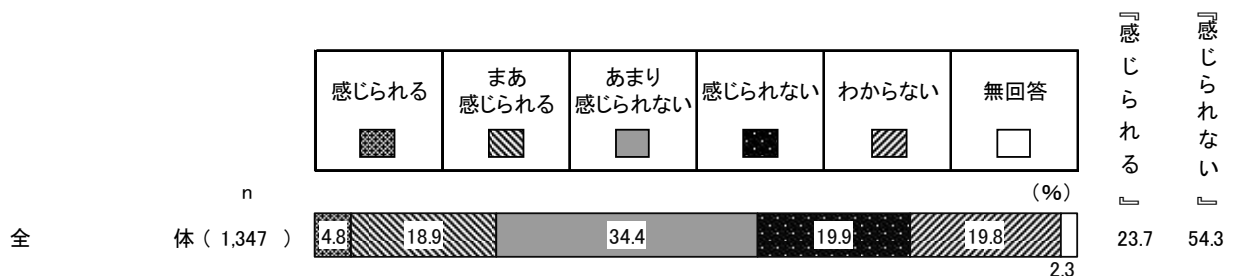
地域センターに求めるサービスを聞いたところ、「地域交流イベントが開催されること」（19.2%）は約2割となっており、次いで「集会室等が利用できること」（16.1%）、「区政に関するチラシ・申請書等が入手できること」（13.7%）、「町会・自治会等の地域活動団体へのサポートが行われること」（6.4%）、「区政等の各種相談ができること」（4.8%）などとなっています。一方、「特にない」（44.1%）が4割半ばとなっています。



16. 今後の行政サービスと負担のあり方

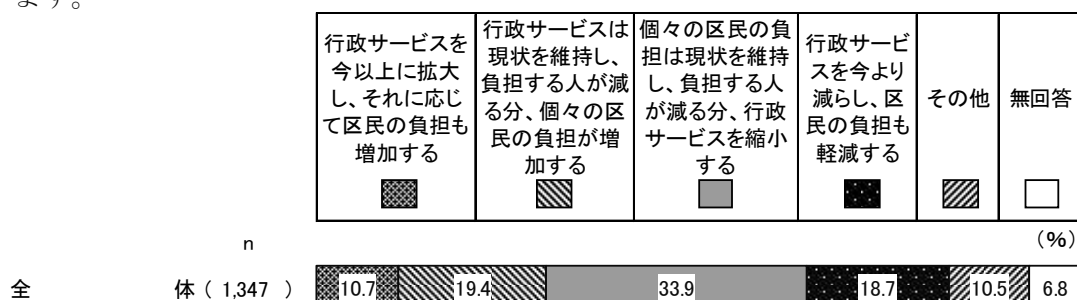
(1) 税金に見合った行政サービスの提供（問42）

日頃の行政サービスについて、税金に見合ったサービスが受けられていると感じられるかを聞いたところ、「感じられる」（4.8%）と「まあ感じられる」（18.9%）を合わせた『感じられる』（23.7%）が2割を超えています。一方、「あまり感じられない」（34.4%）と「感じられない」（19.9%）を合わせた『感じられない』（54.3%）が5割半ばとなっています。



(2) 将来的な行政サービスと住民負担のバランス（問43）

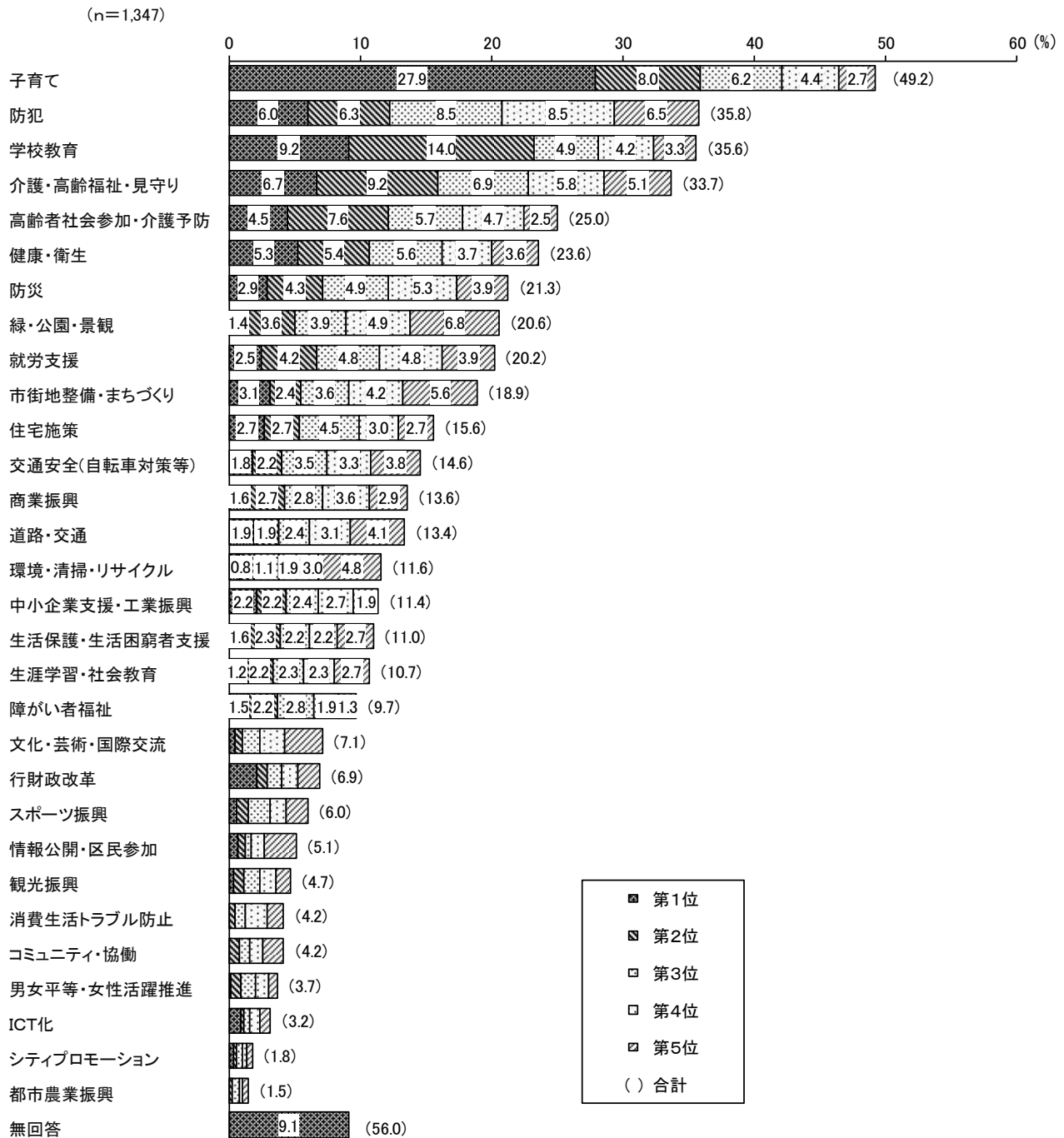
区役所などの行政サービスと住民負担のバランスとして、どのような形がふさわしいと考えるかを聞いたところ、「個々の区民の負担は現状を維持し、負担する人が減る分、行政サービスを縮小する」（33.9%）が3割を超えています。次いで「行政サービスは現状を維持し、負担する人が減る分、個々の区民の負担が増加する」（19.4%）、「行政サービスを今より減らし、区民の負担も軽減する」（18.7%）、「行政サービスを今以上に拡大し、それに応じて区民の負担も増加する」（10.7%）、「行政サービスを今以上に拡大し、それに応じて区民の負担も増加する」（10.7%）となっています。



(3) 行政サービスで重点的に力を入れるべき分野（問44）

今後、区が重点的に力を入れるべきだと思う分野を、重要だと思う順に5つまで聞いたところ、第1位から第5位までの合計の割合では、「子育て」(49.2%)が約5割で最も高く、次いで「防犯」(35.8%)、「学校教育」(35.6%)、「介護・高齢福祉・見守り」(33.7%)などとなっています。

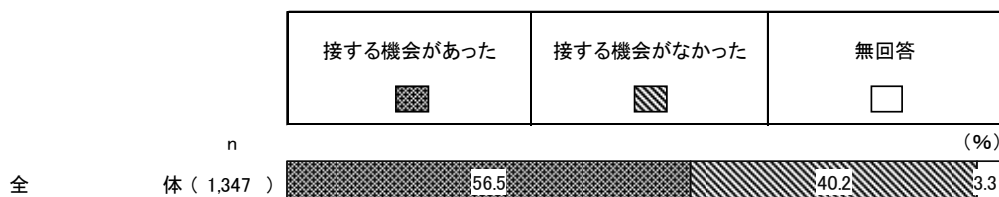
また、第1位の割合では、「子育て」(27.9%)が3割近くで最も高く、次いで「学校教育」(9.2%)、「介護・高齢福祉・見守り」(6.7%)、「防犯」(6.0%)などとなっています。



17. 板橋区職員に期待する能力・資質

(1) 最近1年間の職員と接する機会の有無 (問45)

過去1年間で職員と接する機会があったかを聞いたところ、「接する機会があった」(56.5%)と答えた人は5割半ばで、「接する機会がなかった」(40.2%)は4割となっています。



(1-1) 職員の対応に対する満足度 (問45-1)

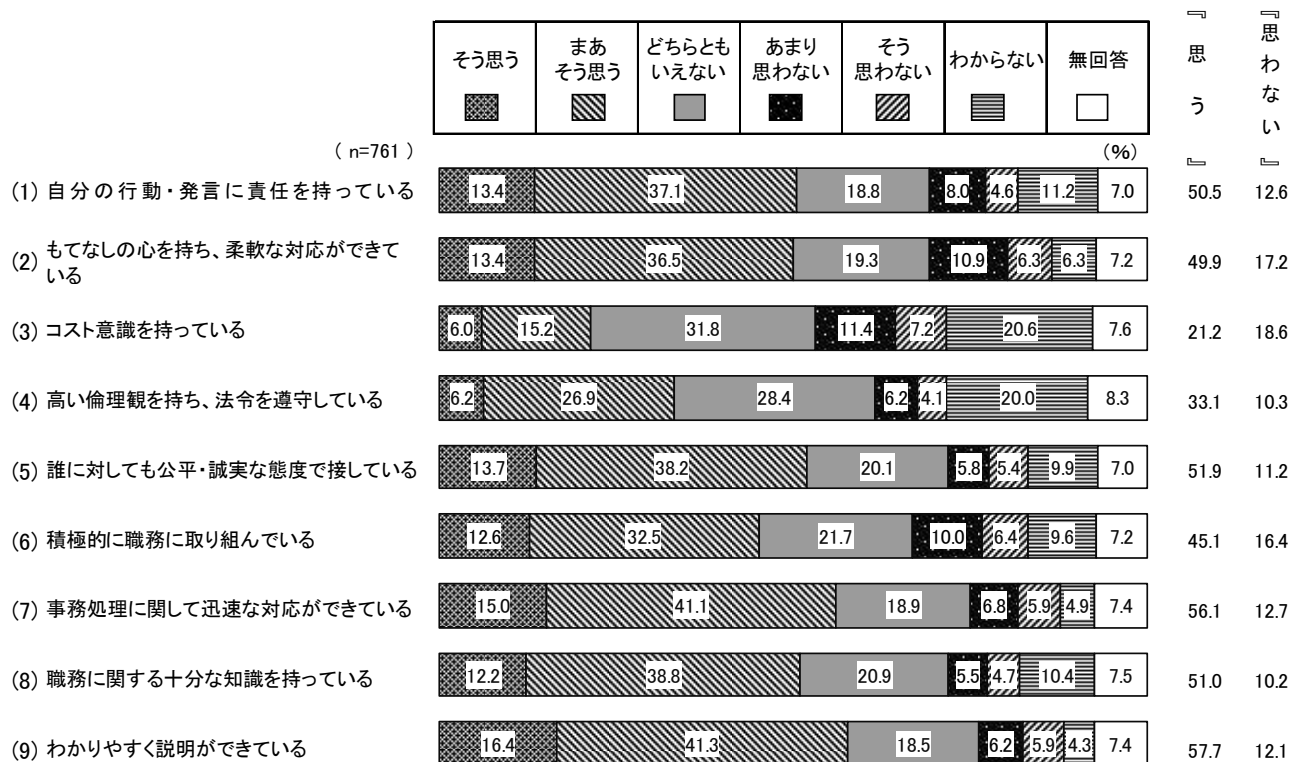
問45で、過去1年間で区役所の窓口(電話含む)を利用した、又は地域活動やイベント等で職員と「接する機会があった」と答えた人(761人)に、その際に接した職員の対応に関する満足度を聞いたところ、「満足」(23.5%)と「まあ満足」(41.3%)を合わせた『満足』(64.8%)が6割半ばとなっています。「やや不満」(6.0%)と「不満」(5.4%)を合わせた『不満』(11.4%)は1割を超えています。



(1-2) 職員の能力・資質の現状評価 (問45-2)

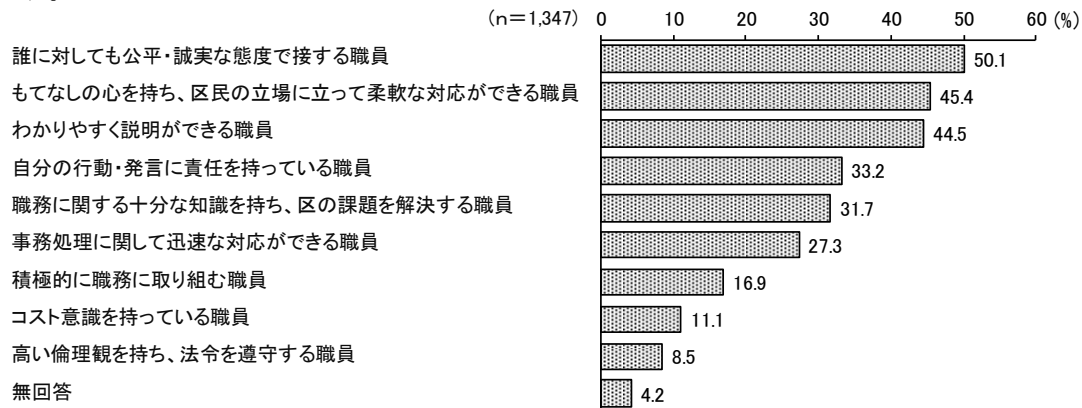
問45で、最近1年間で区役所の窓口(電話含む)を利用した、又は地域活動やイベント等で職員と「接する機会があった」と答えた人(761人)に、板橋区職員の能力・資質について、現在の状況をどのように思うか、9項目に分けて聞いたところ、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『思う』の割合は、(9)わかりやすく説明ができて(57.7%)が6割近くで、この他にも4項目で5割台となっています。一方、(4)高い倫理観を持ち、法令を遵守している(33.1%)は3割台、(3)コスト意識を持っている(21.2%)は2割台にとどまっています。ただし、この2項目はいずれも「わからない」が2割台となっています。

また、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『思わない』は9項目すべてで1割台となっています。



(2) 職員に求める姿 (問46)

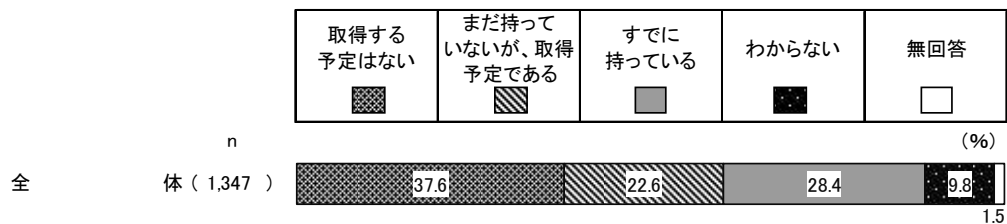
特に求める板橋区職員の姿を聞いたところ、「誰に対しても公平・誠実な態度で接する職員」(50.1%)が5割で、次いで「もてなしの心を持ち、区民の立場に立って柔軟な対応ができる職員」(45.4%)、「わかりやすく説明ができる職員」(44.5%)、「自分の行動・発言に責任を持っている職員」(33.2%)、「職務に関する十分な知識を持ち、区の課題を解決する職員」(31.7%)などとなっています。



18. その他

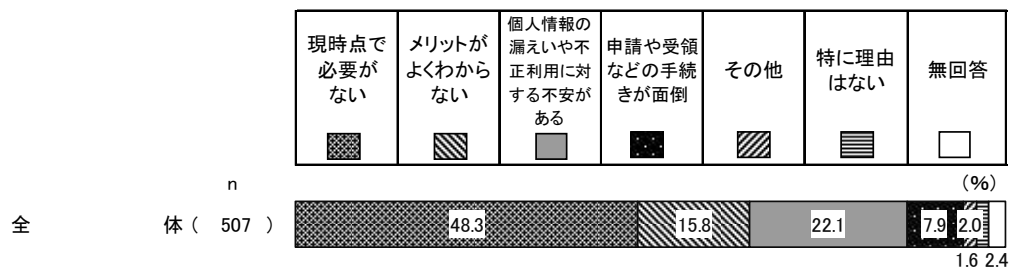
(1) 「マイナンバー (個人番号) カード」の取得状況 (問47)

「マイナンバー (個人番号) カード」の取得状況について聞いたところ「取得する予定はない」(37.6%)が4割近くとなっています。一方、「まだ持っていないが、取得予定である」(22.6%)と「すでに持っている」(28.4%)を合わせると将来的には5割を超える方が取得することになります。



(1-1) 取得していない理由 (問47-1)

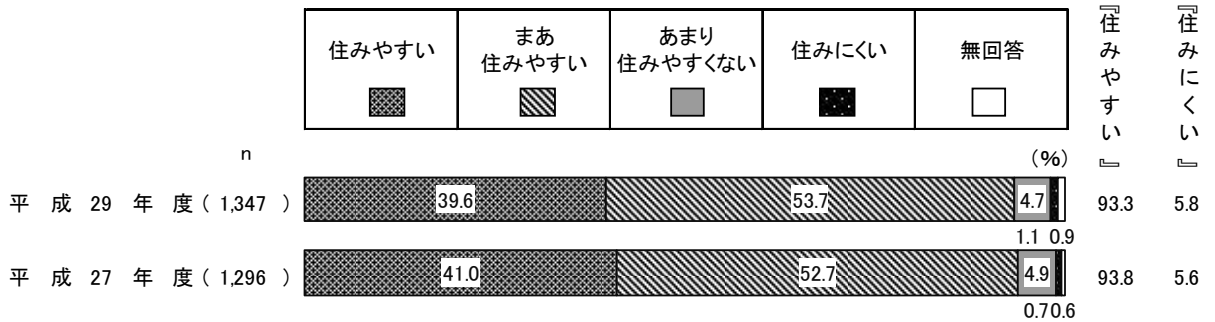
「マイナンバー (個人番号) カード」を取得する予定はない理由を聞いたところ、「現時点で必要がない」(48.3%)が5割近くとなっています。次いで、「個人情報の漏えいや不正利用に対する不安がある」(22.1%)、「メリットがよくわからない」(15.8%)となっています。



第3章 前回調査との比較

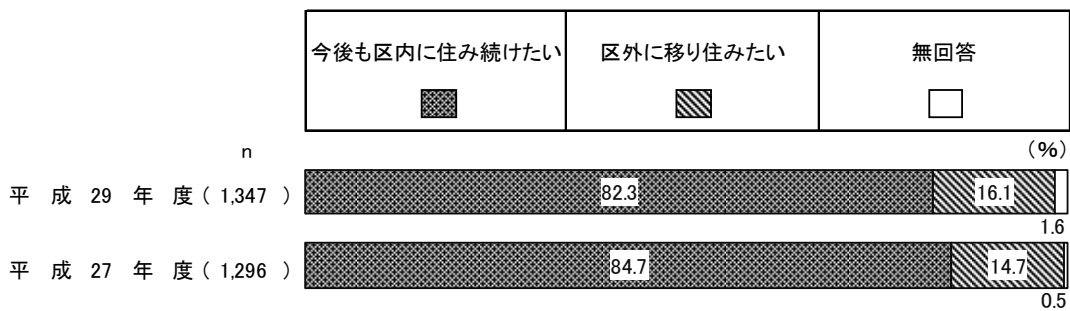
(1) 住みやすさ

板橋区の住みやすさについて、平成27年度と比較して大きな変化はありませんが、「住みやすい」は、平成27年度から1.4ポイント減少し、「まあ住みやすい」が1.0ポイント増加しています。



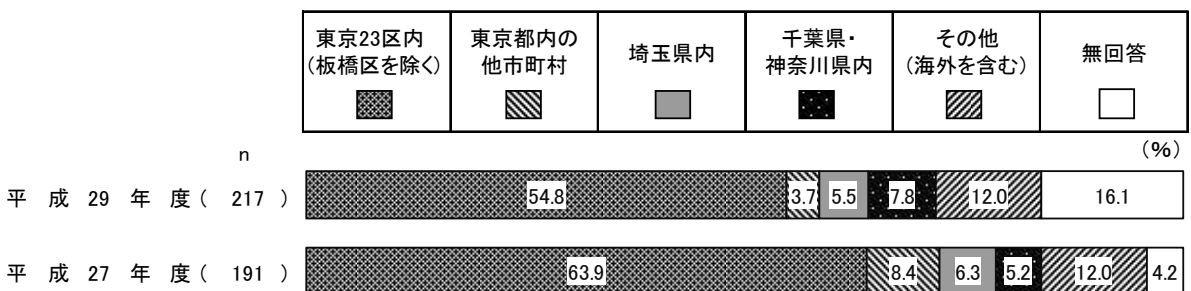
(2) 定住意向

板橋区の定住意向について、平成27年度と比較すると、「今後も区内に住み続けたい」は2.4ポイント減少し、「区外に移り住みたい」が1.4ポイント増加しています。



(2-1) 区外に移り住むとしたら住みたい地域

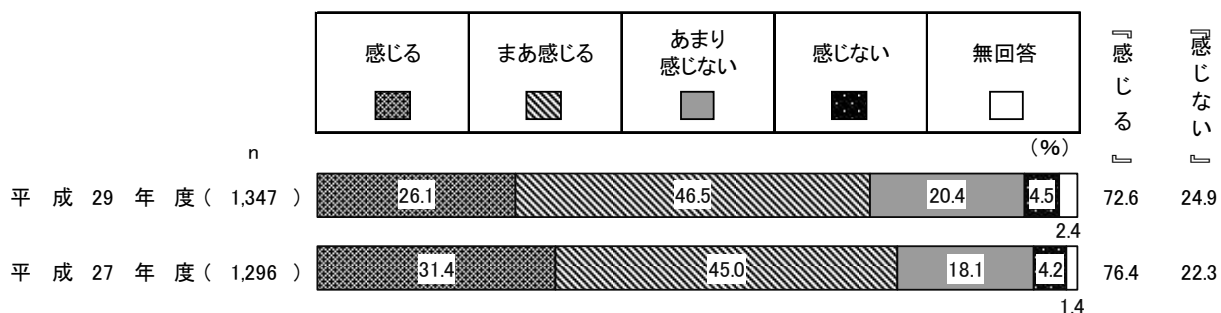
区外に移り住むとしたら住みたい地域について平成27年度と比較すると、「東京23区内（板橋区を除く）」で9.1ポイント、「東京都内の他市町村」で4.7ポイント減少しています。一方、「千葉県・神奈川県」は2.6ポイント増加しています。



(3) 板橋区に対する「愛着」と「誇り」

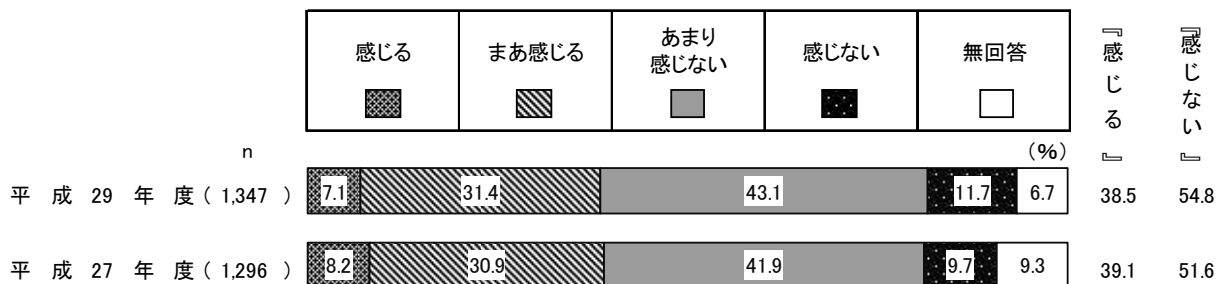
【愛着】

板橋区に対して愛着を感じるかについて、平成27年度と比較したところ、「感じる」と「まあ感じる」を合わせた『感じる』が3.8ポイント減少し、「あまり感じない」と「感じない」を合わせた『感じない』が2.6ポイント増加しています。



【誇り】

板橋区に対して誇りを感じるかについて、平成27年度と比較したところ、「感じる」と「まあ感じる」を合わせた『感じる』が0.6ポイント減少し、「あまり感じない」と「感じない」を合わせた『感じない』が3.2ポイント増加しています。



(4) 行政サービスで重点的に力を入れるべき分野

今後、区が重点的に力を入れるべきだと思う分野について、重要だと思う順に5つまで聞いたところ、第1位から第5位までの合計の割合では、平成27年度と比較すると、「子育て」、「防犯」は1つ順位を上げ1位と2位に、「学校教育」は2つ順位を上げ3位となっています。一方、「介護・高齢福祉・見守り」は、3つ順位を下げ第4位となっています。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成29年度	子育て 49.2	防犯 35.8	学校教育 35.6	介護・高齢福祉・見守り 33.7	高齢者社会参加・介護予防 25.0
平成27年度	介護・高齢福祉・見守り 46.6	子育て 45.4	防犯 36.4	高齢者社会参加・介護予防 32.2	学校教育 29.6

平成 29 年度板橋区区民意識意向調査報告書（概要版）

企画・実施 板橋区政策経営部政策企画課

〒173-8501 板橋区板橋二丁目 66 番 1 号

TEL 03-3579-2013 FAX 03-3579-4211

sk-sseisaku2@city.itabashi.tokyo.jp

集計・分析 株式会社都市計画 2 1

〒103-0013 中央区日本橋人形町一丁目 6 番 10 号

TEL 03-5623-6371 FAX 03-5623-6672

平成 29 年 12 月発行

刊行物番号 29-123

※再生紙を使用しています。